

2021年12月期第2四半期業績 ご説明資料

2021年8月24日

 **OATアグリオ株式会社**

証券コード：4979

1. OATアグリオグループ概要と
2021年12月期第2四半期業績
2. 新中期経営計画【2021-2023】と
自己資本比率の推移予想
3. サステナビリティ経営への取組み
4. 株主還元

1. OATアグリオグループ概要と
2021年12月期第2四半期業績
2. 新中期経営計画【2021-2023】と
自己資本比率の推移予想
3. サステナビリティ経営への取組み
4. 株主還元

◆OATアグリオグループ

親会社名	OATアグリオ株式会社
事業内容	農薬、肥料・バイオスティミュラントの研究開発、製造および販売
本社所在地	東京都千代田区神田小川町1-3-1 NBF小川町ビルディング8F
設立年月日	2010年9月28日
資本金	4億6,190万円
決算期	12月
代表者	代表取締役社長 岡 尚
従業員数	629名
(女性従業員)	185名 (29.4%)
(外国人数)	403名 (64.1%)
(研究開発人員)	112名 (17.8%)
研究開発費率	売上高の約10%

◆OATアグリオ グループ各社

LIDA Plant Research S. L.



OAT&IIL India Laboratories



PT.OAT MITOKU AGRIO



クリザール社



OATアグリオ



潤禾（舟山）植物科技有限公司



Asahi Chemical Europe



旭化学工業(株)



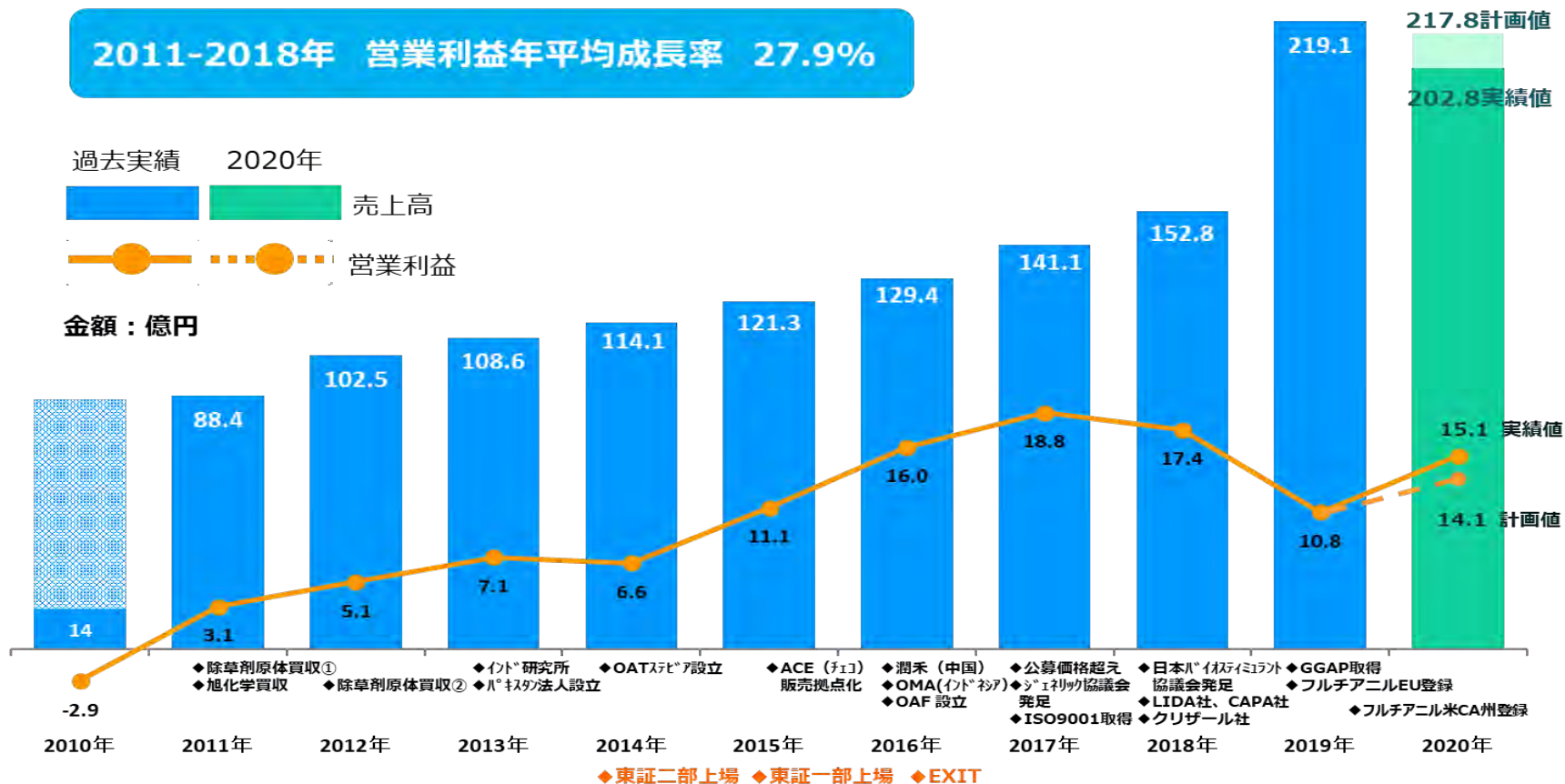
インプラントイノベーションズ



◆2010～2020年売上高・営業利益推移

2011-2018年 売上高年平均成長率 8.1%

2011-2018年 営業利益年平均成長率 27.9%



2010年MBOにて独立 2014年東証2部上場 2015年東証1部上場
2018年よりグローバル展開を本格化し、“第2ステージへ”

◆2021年12月期2Q連結業績

2021年12月期2Q連結業績予想

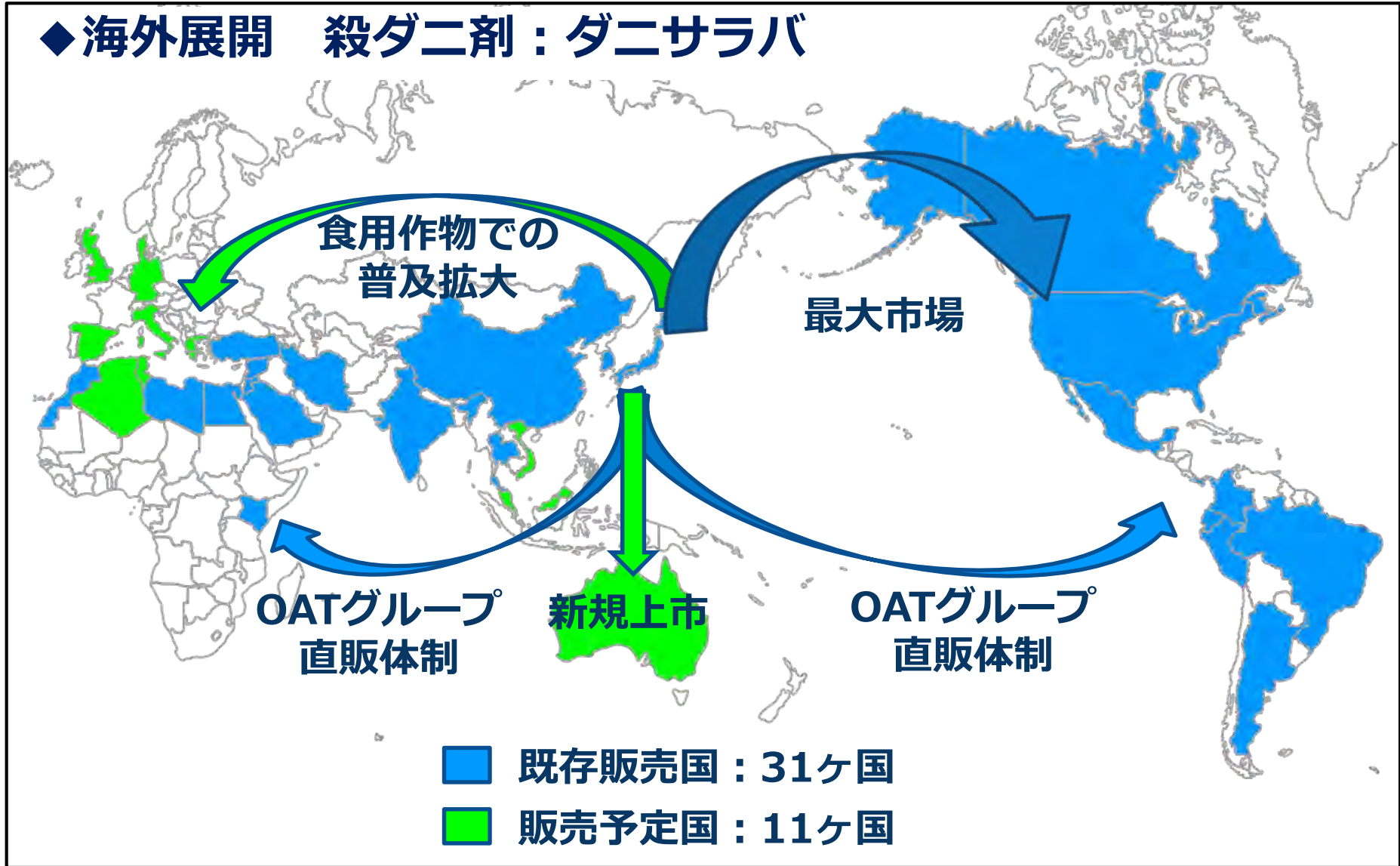
金額：百万円

科目	2020年12月期 2Q連結業績	2021年12月期 2Q連結業績	前年比	2021年12月期 通期連結業績予想	進捗率
売上高	11,522	12,951	112.4%	21,288	60.8%
営業利益	1,408	1,831	130.1%	1,594	114.8%
経常利益	1,298	1,895	146.1%	1,419	133.5%
親会社株主に 帰属する当期純利益	796	1,320	165.8%	908	145.4%

- ・国内農薬分野については、殺虫剤「ハチハチ」、水稻除草剤が前年比で減少
- ・海外農薬分野については、殺虫剤「オンコル」、殺ダニ剤「ダニサラバ」の販売が好調に推移
- ・肥料・バイオスティミュラント分野では、バイオスティミュラント剤「アトニック」、施設園芸用肥料「養液土耕肥料」、「OKシリーズ」などの販売が前年比で増加
- ・オランダのクリザール社では、個人を中心とした花卉需要の増加により売上が増加

◆業績好調要因 ①殺ダニ剤：ダニサラバ

◆海外展開 殺ダニ剤：ダニサラバ

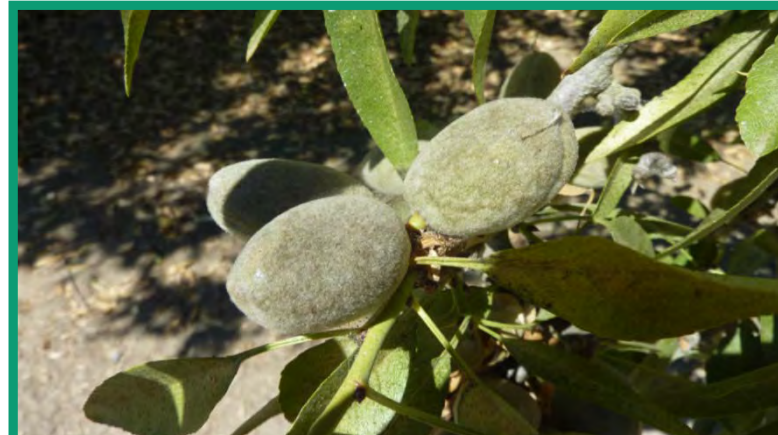


◆業績好調要因 ①殺ダニ剤：ダニサラバ

シトラスのダニによる被害（ブラジル）



アーモンドのダニによる被害（USA）



ダニサラバの特徴：ハダニに卓越した効果を示すが、天敵には影響がない

◆業績好調要因 ②OATアグリオのバイオスティミュラント製品

No.	製品名	有効成分	期待される効果	使用回数
1	リダバイタル	甜菜糖密・アミノ酸	光・温度のストレス軽減	制限なし
2	アルガミックス	海藻・糖	乾燥・塩害のストレス軽減 着果向上	制限なし
3	フルボディ	腐植物質（フルボ酸/フミン酸）・海藻	地下部育成・促進 土壌改良	制限なし
4	ポテトール	植物由来物質	気孔の開口をコントロール	制限なし
5	鉄カトレプラス	トレハロース・鉄	土壌中からの鉄分吸収を促進	制限なし
6	サンピ シリーズ	有機酸・糖	気候ストレスを軽減・栄養分	制限なし
7	ATONIK	ニトロフェノール類	非生物的・生物的なストレスからの軽減	



新製品を投入し、ラインナップをさらに拡充

ATONIK散布によるダイズの発育比較（ハンガリー）



除草剤によるストレスを軽減します。

◆業績好調要因 ③施設園芸栽培分野に貢献できるOATアグリオ製品

➤ 施設園芸用肥料

OKFシリーズ、養土耕肥料、タンクミックスシリーズ

➤ 防除農薬

サフオイル・アカリタッチなどの“グリーン農薬”製品

➤ バイオスティミュラント製品

LIDA 3製品

➤ 養液土耕栽培システム

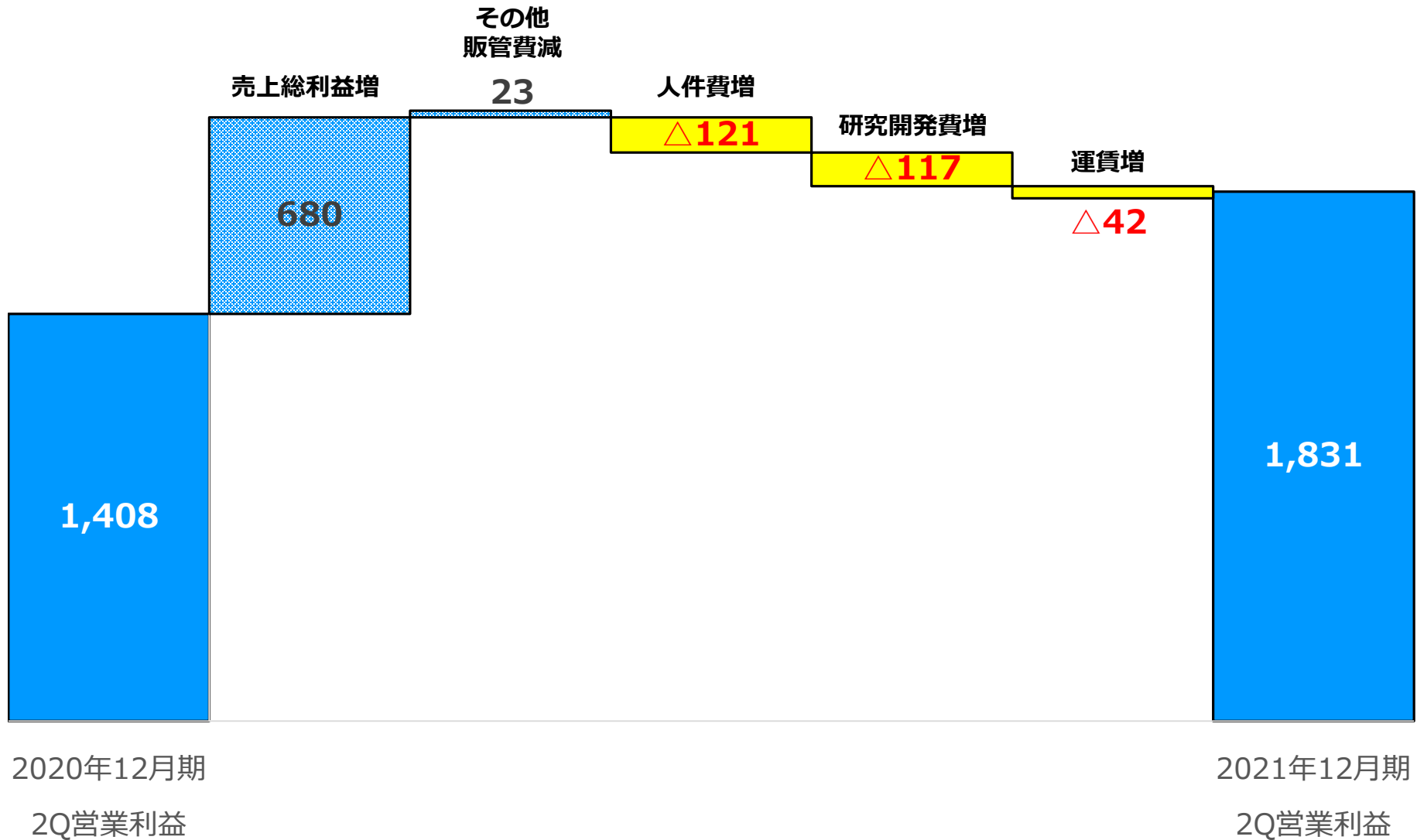
設備・システム



◆2021年12月期2Q連結営業利益増減分析（対前年）

プラス要因
 マイナス要因

金額：百万円



◆2021年12月期通期連結業績予想

2020年12月期通期連結業績予想

金額：百万円

科目	2020年12月期 通期連結業績	2021年12月期 通期連結業績 期首予想	2021年12月期 通期連結業績 修正予想	前年比	計画比
売上高	20,288	21,288	22,200	109.4%	104.3%
営業利益	1,512	1,594	1,790	118.4%	112.2%
経常利益	1,346	1,419	1,740	129.3%	122.5%
親会社株主に 帰属する当期純利益	837	908	1,180	141.0%	129.8%

◆最近のトピックス（事業譲渡について）

➤ 事業譲渡の概要及び理由

当社は、2021年8月13日開催の取締役会にて北興化学工業株式会社への水稻除草剤「ベンゾフェナップ・ベンフレセート原体及び含有製剤」の事業譲渡につきまして、基本合意書を締結することを決議いたしました。

当社グループは、「食糧増産技術と真心で世界の人々に貢献します」を経営理念とし、防除技術、施肥灌水技術、バイオスティミュラントを中心に世界の農業分野に事業展開しております。

また、2021年2月に策定致しました『新中期経営計画【2021-2023年】』の計画達成にむけて『人や環境に優しい持続可能な農業』をより広く普及させるため、経営資源の『選択と集中』を行い、生産者様が必要とする新技術、新製品開発をさらに加速させる所存です。

➤ 対象事業の経営成績

2020年12月期の売上高 540百万円

➤ 日程

基本合意書締結日	: 2021年8月13日
譲渡契約締結日（予定）	: 2021年9月末
事業譲渡期日（予定）	: 2021年9月末

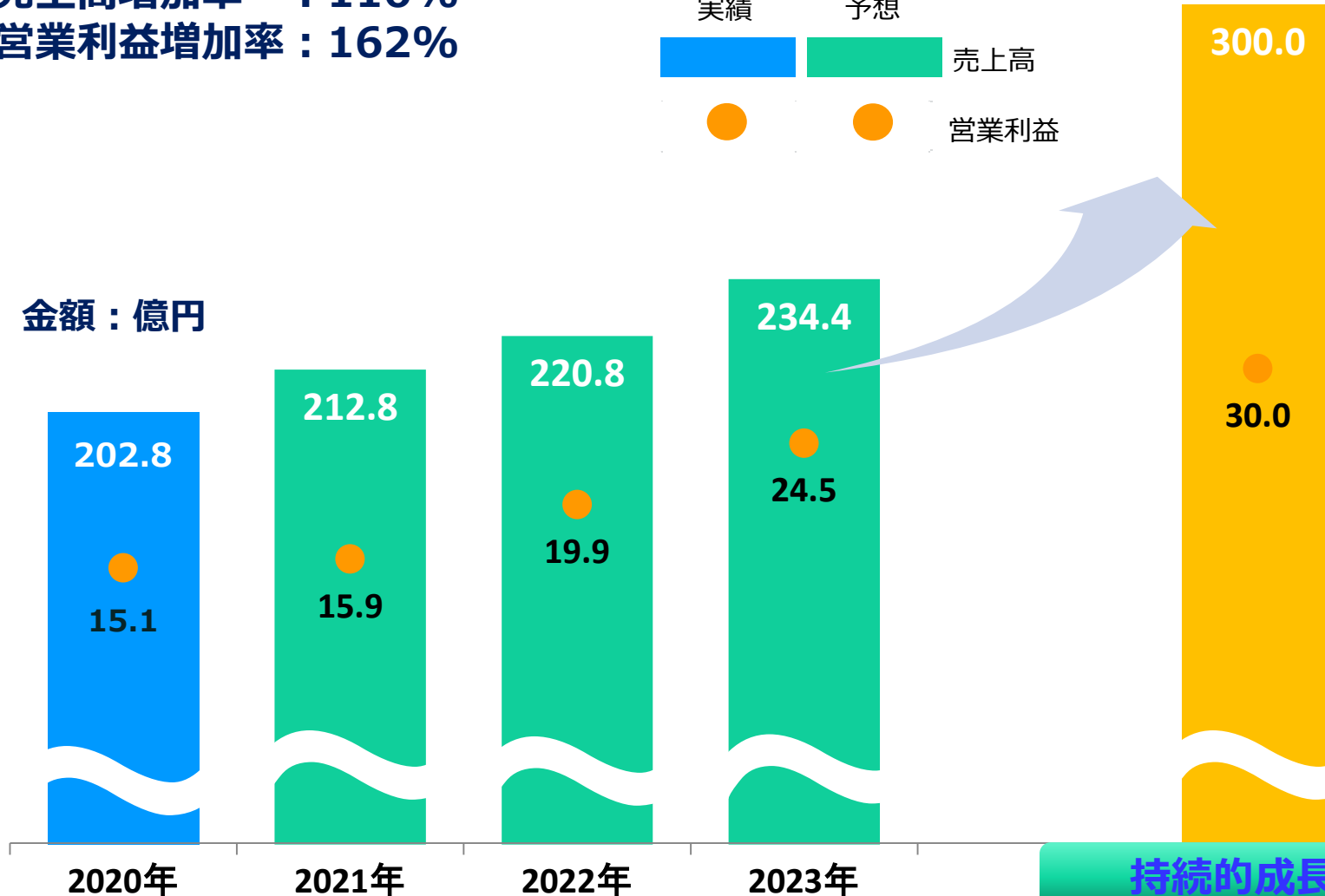
1. OATアグリオグループ概要と
2021年12月期第2四半期業績
- 2. 新中期経営計画【2021-2023】と
自己資本比率の推移予想**
3. サステナビリティ経営への取組み
4. 株主還元

◆新中期経営計画【2021-2023年】

売上高増加率 : 116%
営業利益増加率 : 162%



金額 : 億円



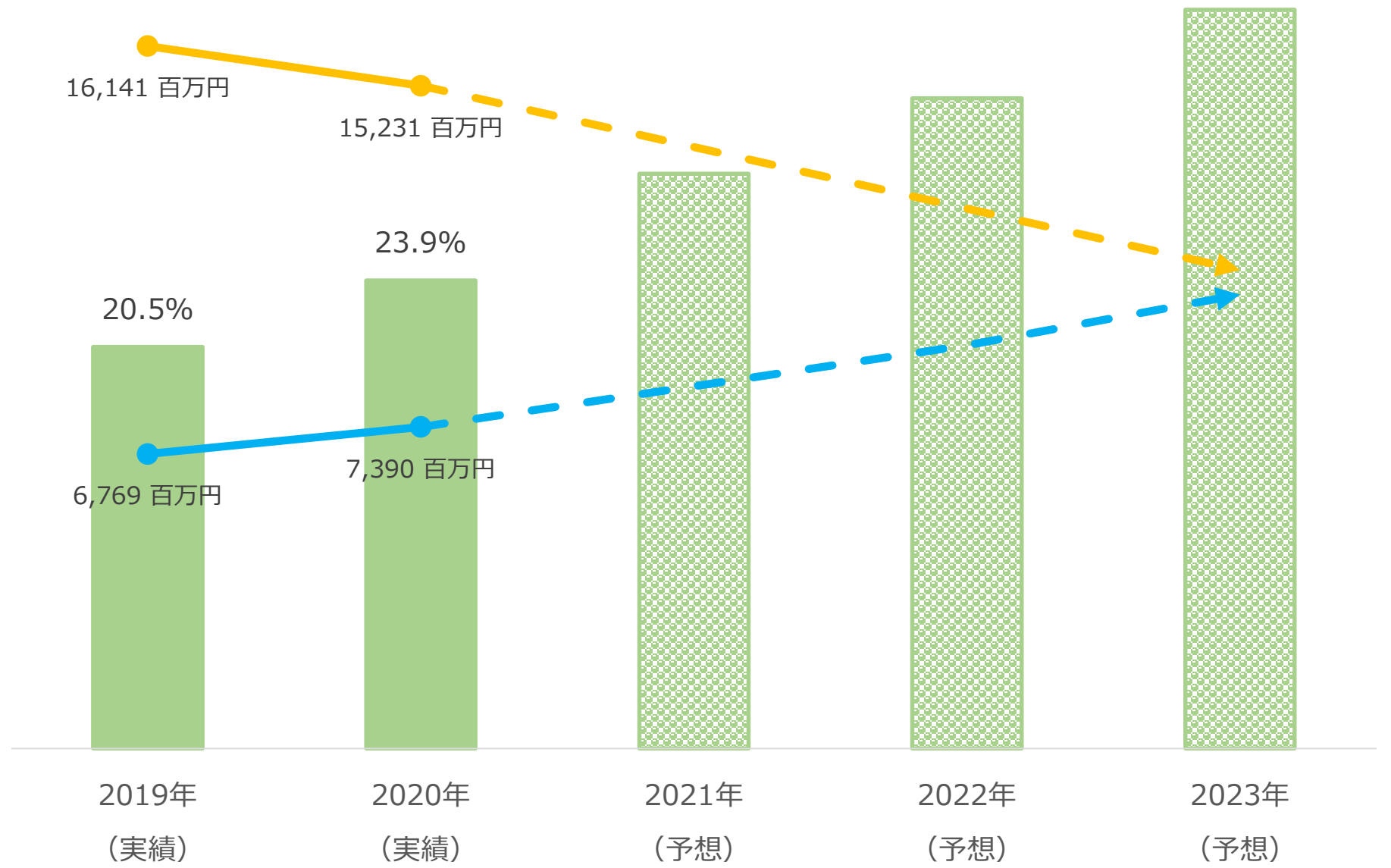
◆新中期経営計画（連結）

	2020年実績	2021年計画	2022年計画	2023年計画
売上高	202.8億円	212.8億円	220.8億円	234.4億円
営業利益	15.1億円	15.9億円	19.9億円	24.5億円
経常利益	13.4億円	14.2億円	17.8億円	22.5億円
親会社に帰属する当期純利益	8.3億円	9.0億円	10.3億円	14.1億円
売上高営業利益率（%）	7.5%	7.5%	9.0%	10.4%
連結ROE（%）	12.9%	13.8%	14.1%	16.8%
売上高研究開発費比率（%）	8.5%	10.1%	9.5%	9.6%

連結対象会社： OATアグリオ（日本） 旭化学工業（日本）
 OIL(インド) ACE(チェコ) 潤禾(中国)
 OMA(インドネシア) LIDA(スペイン) 他2社
 BWHホールディングス(オランダ：Chrysal) 他18社
 インプラント(日本)

◆自己資本比率予想

自己資本比率 借入金 株主資本



1. OATアグリオグループ概要と
2021年12月期第2四半期業績
2. 新中期経営計画【2021-2023】と
自己資本比率の推移予想
- 3. サステナビリティ経営への取組み**
4. 株主還元

◆企業理念と3つのアグリテクノロジー

ESG（環境、社会、ガバナンス）経営、SDGs（持続可能な開発目標）への積極的な取り組み

防除技術

2拠点の研究体制
(鳴門・インド)
高安全性・新規有効成分探索

施肥灌水技術

栽培技術
水耕栽培肥料
国内シェアNo.1

バイオスティミュラント

環境・病害虫に対し作物の
免疫力を高める
生物多様性の尊重



『企業理念』

食糧増産技術(アグリテクノロジー)と真心で
世界の人々に貢献します。

◆アグリテクノロジーを極める

食糧増産が必須

エネルギーの
大量消費

自然破壊

農薬使用による
薬剤耐性の発生



砂漠化・塩害・水質汚染
世界の土壌の3割が劣化

新規開発を行っている
農薬メーカーは約千社
の中で日欧米の20数社

国連が2015年を
国際土壌年とする

新規薬剤開発
防除技術

作物の免疫力の向上
バイオスティミュラント

必要最小限の水と肥料
施肥灌水技術

◆OATアグリオグループ SDGsへの取組み

OATアグリオグループ

企業統治
労働慣行

16 平和と公正をすべての人に

16.7

製品の販売
技術の普及

製品の使用

支援

12 つくる責任
つかう責任

12.a

17 パートナリシップで目標を達成しよう

17.16

17.17

貢献目標

1 貧困をなくそう

1.5

12 つくる責任
つかう責任

12.2

環境保全

環境へのリスク低減

製造地域

11 住み続けられるまちづくりを

11.6

14 海の豊かさを守ろう

14.3

農業地域

15 陸の豊かさも守ろう

15.3

14 海の豊かさを守ろう

14.1

14.3

6 安全な水とトイレを世界中に

6.3

6.4

8 働きがいも経済成長も

8.4

資源効率の改善

2 飢餓をゼロに

2.4

2.1

飢餓撲滅

製造

12 つくる責任
つかう責任

12.5

6 安全な水とトイレを世界中に

6.3

研究開発

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

9.4






9.5

農業技術の向上

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

7.2

◆ ESG経営/CSR：重要課題と実施項目

ESG	重要課題	KPI	関連SDGs
E En- viron- ment	廃棄物低減とリサイクル	廃棄物・プラスチックゴミの削減、生産ロスの低減、工業用原材料のリサイクル実用化	     6.3、6.4、7.2、11.6、12.5、14.1、14.3
	再生可能エネルギーの利用・温室効果ガスの低減	再生可能エネルギーの利用促進	
	排気・排水管理	工場における水消費・排水管理	
S Socie- ty	労働環境	職場の安全性・無事故	     4.4、5.5、8.5、8.8、10.2、10.3、12.2
	製品の品質	品質保証体制の強化	
	人事	新しい働き方と評価制度の策定、女性活躍推進法の遵守と推進	
	人事育成・人材開発	資格取得サポート、テーマ別研修	
	サプライチェーン・マネジメント	物流システム構築、責任ある原材料調達	
G Governance	コーポレート・ガバナンス	ガバナンス・内部統制の強化、情報開示による経営の透明性、ステークホルダー・エンゲージメントの推進	  12.6、16.7、17.16、17.17
	リスクマネジメント	IT統制	
	コンプライアンス	コンプライアンスの推進、ISO9001品質マネジメントの維持・更新	

OATアグリオグループにおいて“環境保全”や“ダイバーシティー”など、ESG経営に積極的に取り組んでおります。

◆ 農業現場では生産力向上と持続性の両立が鍵

➤ みどりの食料システム戦略概要（農林水産省発表）

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

➤ 2050年までに目指す姿

1. CO₂ゼロエミッション化
2. 化学農薬の使用量を50%低減
3. 化学肥料の使用量を30%低減
4. 有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大

◆ 農業現場では生産力向上と持続性の両立が鍵

➤ 戦略的な取り組み方法

1. CO₂ゼロエミッション化

- ◆ 省エネ型施設園芸の導入 ◆ 間伐材の適切な森林管理
- ◆ 農林業機械・漁船の電化・水素化等 ◆ 高機能合成樹脂のバイオマス化を拡大

2. 化学農薬の使用量を50%低減

- ◆ 総合的病害虫・雑草管理 (IPM) の普及
- ◆ ドローンやロボットを用いた防除・除草技術
- ◆ バイオスティミュラントを活用した革新的作物保護技術の開発

3. 化学肥料の使用量を30%低減

- ◆ 作物の生育タイミングに合わせた肥効調整型肥料の高度化
- ◆ 耕畜連携による環境負荷軽減技術の導入
- ◆ 土壌微生物機能の完全解明とフル活用による減農薬・肥料栽培の拡大

4. 有機農業の取組面積の割合を25% (100万ha) に拡大

- ◆ 緑肥等の有機物施用による土づくり ◆ 水田の水管理による雑草の抑制
- ◆ 先端的な物理的手法や生物学的手法を駆使した病害防除技術
- ◆ 主要病害虫に対する抵抗性を有した品種の育成

◆人や環境に優しい持続可能な農業に貢献

➤ サステナビリティ経営

当社グループは、サステナビリティ経営に注力します。
当社グループの企業活動そのものが、SDGsへの取組みであり、
更に事業の持続可能性向上を図るために、下記取組みを開始します。

➤ 当社グループの今後の取組

- ◆TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の対応（2022年3月）
 - ・気候関連のリスクと機会が財務に及ぼす影響について精査、検証
 - ・コーポレートガバナンス・コードへの反映

- ◆カーボンニュートラルへの対応（2021年11月）
 - ・GHG（温室効果ガス）の排出量算定及び削減目標の設定

- ◆サステナビリティレポートの作成（2022年3月）

◆企業理念と企業文化

『企業理念』

食糧増産技術(アグリテクノロジー)と真心で
世界の人々に貢献します。

『企業文化』

栽培の楽しさ・難しさを自ら体験
世界に発信する。



『理念の実現』

栽培を通してアグリテクノロジーを普及させることで
人や環境に優しい持続可能な農業に貢献し
『環境保全』 『資源効率の改善』 『飢餓撲滅』 を実現します。

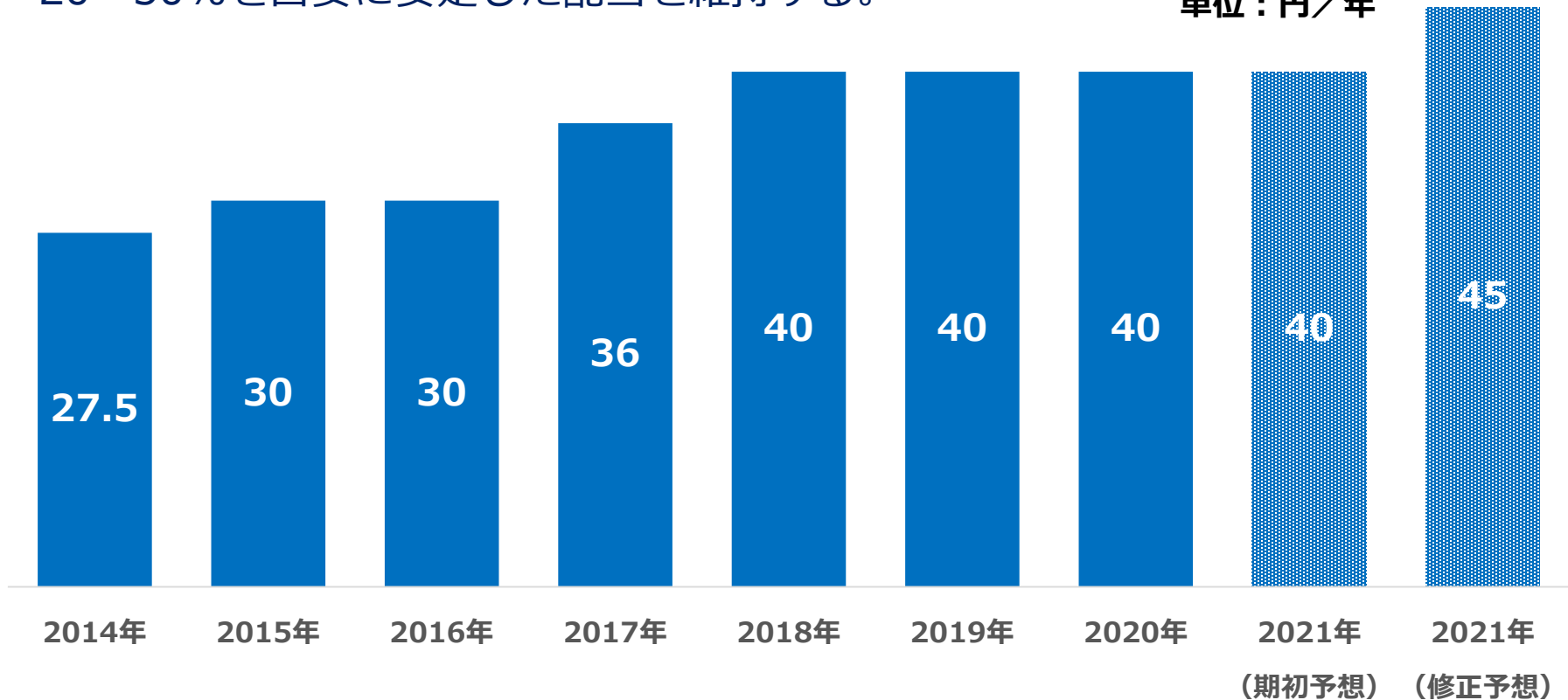
1. OATアグリオグループ概要と
2021年12月期第2四半期業績
2. 新中期経営計画【2021-2023】と
自己資本比率の推移予想
3. サステナビリティ経営への取組み
4. **株主還元**

◆株主還元

➤ 基本的な考え方

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置付けたうえ、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、配当性向20～30%を目安に安定した配当を維持する。

単位：円／年



配当性向20～30%を維持

◆本資料の取扱いについて

- 本書には、当社及び当社グループに関する見通し、将来に関する計画などが記載されております。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

参考資料

新中期経営計画【2021-2023年】

新中期経営計画【2021-2023年】

2021年2月12日



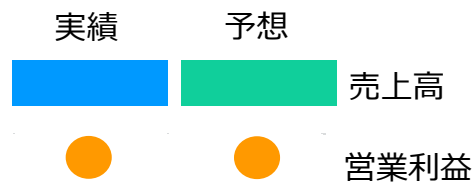
OATアグリオ株式会社

証券コード：4979

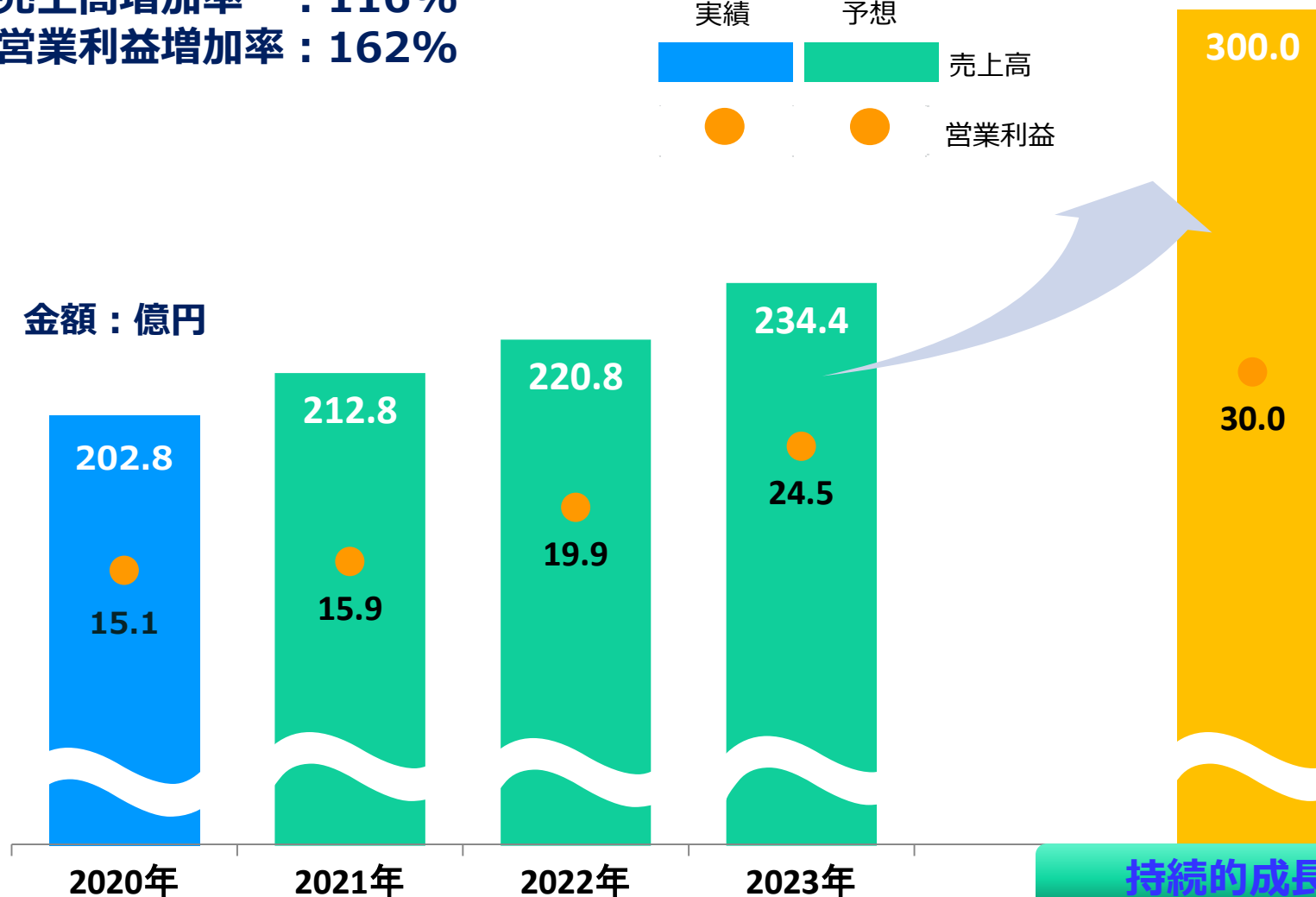
1. **新中期経営計画【2021-2023年】**
2. **新中期経営計画の位置付け**
3. **OATアグリオグループの目指す姿**
4. **成長ドライバーへの取組み強化**
5. **グローバルでのシナジー効果の追求**
6. **企業文化の構築と新規ビジネスへの挑戦**
7. **経営指標**

1. 新中期経営計画【2021-2023年】

売上高増加率 : 116%
営業利益増加率 : 162%



金額 : 億円



持続的成長へ

◆新中期経営計画【2021-2023年】

OATアグリオグループは新中期経営計画において
企業理念の下

- 成長ドライバーへの取組み強化
- グローバルでのシナジー効果の追及
- 企業文化の構築と新規ビジネスへの挑戦

をやり遂げます。

持続的に成長し、売上高300億円、営業利益30億円、
研究開発費30億円 を目指します。

◆企業理念と3つのアグリテクノロジー

ESG（環境、社会、ガバナンス）経営、SDGs（持続可能な開発目標）への積極的な取り組み

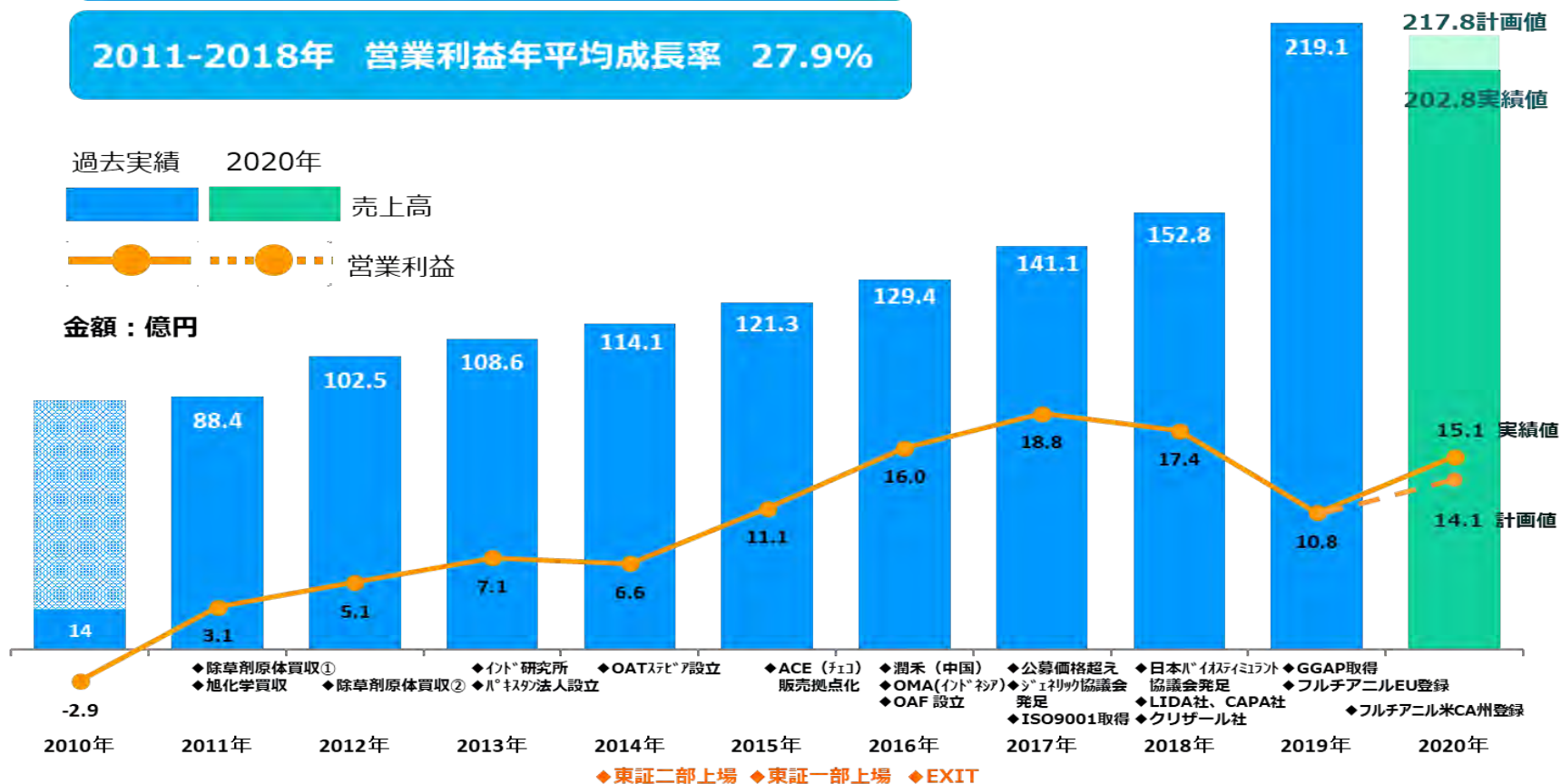


『企業理念』
食糧増産技術(アグリテクノロジー)と真心で
世界の人々に貢献します。

◆2010～2020年売上高・営業利益推移

2011-2018年 売上高年平均成長率 8.1%

2011-2018年 営業利益年平均成長率 27.9%

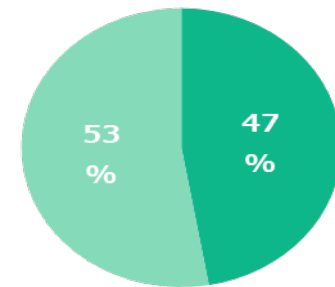
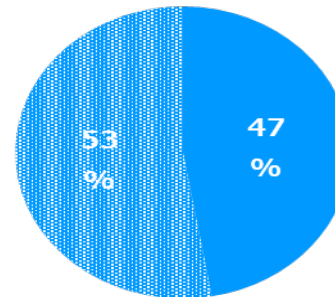
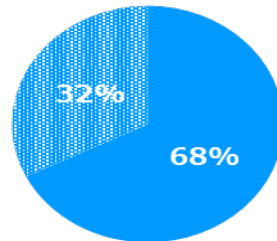
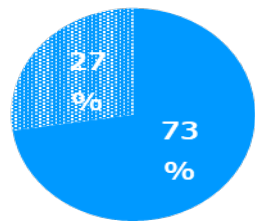
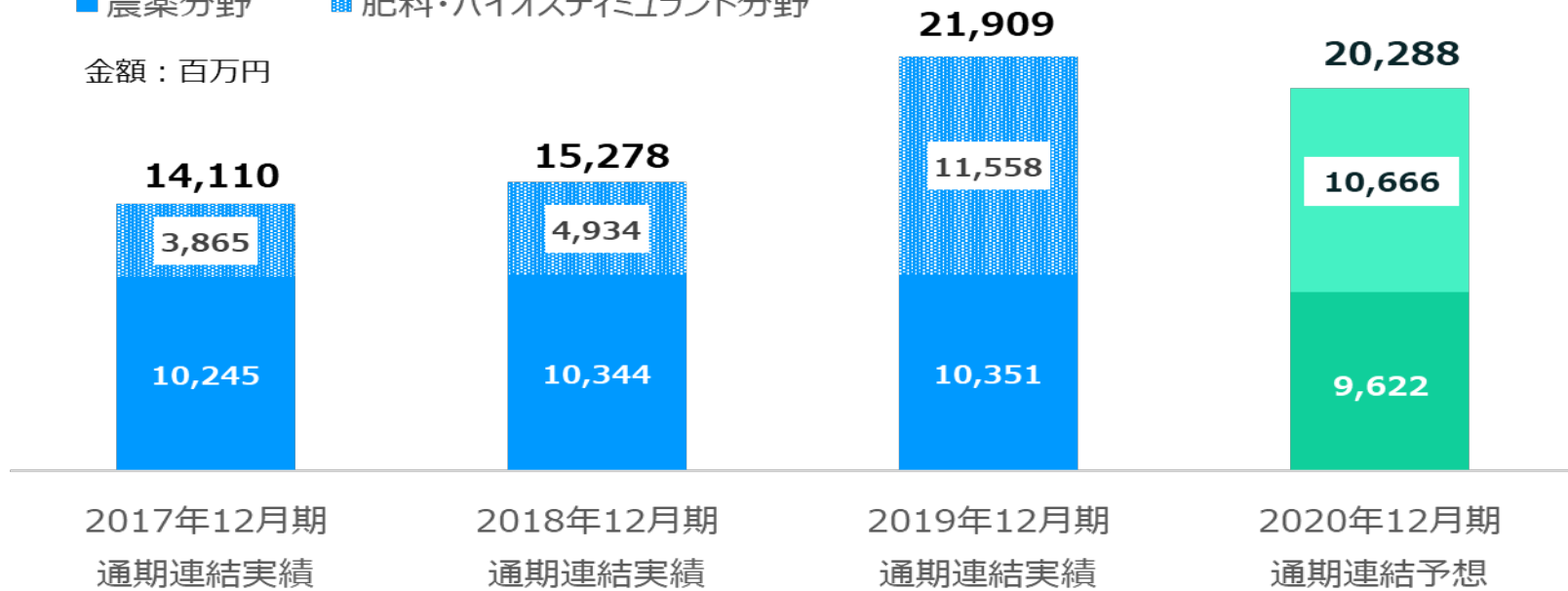


2010年MBOにて独立 2014年東証2部上場 2015年東証1部上場
2018年よりグローバル展開を本格化し、“第2ステージへ”

◆ 農薬分野と肥料・バイオスティミュラント分野

■ 農薬分野 ■ 肥料・バイオスティミュラント分野

金額：百万円



独立時

農薬売上高 80%
肥料・BS売上高 20%

⇒

現在

農薬売上高 47%
肥料・BS売上高 53%

◆OATアグリオ グループ各社

LIDA Plant Research S. L.



OAT&IIL India Laboratories



PT.OAT MITOKU AGRIO



クリザール社



OATアグリオ



潤禾（舟山）植物科技有限公司



Asahi Chemical Europe



旭化学工業(株)



インプラントイノベーションズ



◆新中期経営計画【2021年-2023年】の位置付け

企業理念

「食糧増産技術と真心で世界の人々に貢献します」
を実現するために

- ・ 成長ドライバーへの取組み強化
- ・ グローバルでのシナジー効果の追及
- ・ 企業文化の構築と新規ビジネスへの挑戦

に注力し、持続的成長軌道に載せるための蓄積の3年間とする。


◆アグリテクノロジーを極める

食糧増産が必須

エネルギーの
大量消費

自然破壊

農薬使用による
薬剤耐性の発生



地球温暖化
局所的な気候変動

砂漠化・塩害・水質汚染
世界の土壌の3割が劣化

新規開発を行っている
農薬メーカーは約千社
の中で日欧米の20数社

作物へのストレス
増大


国連が2015年を
国際土壌年とする

新規薬剤開発
防除技術

作物の免疫力の向上
バイオスティミュラント

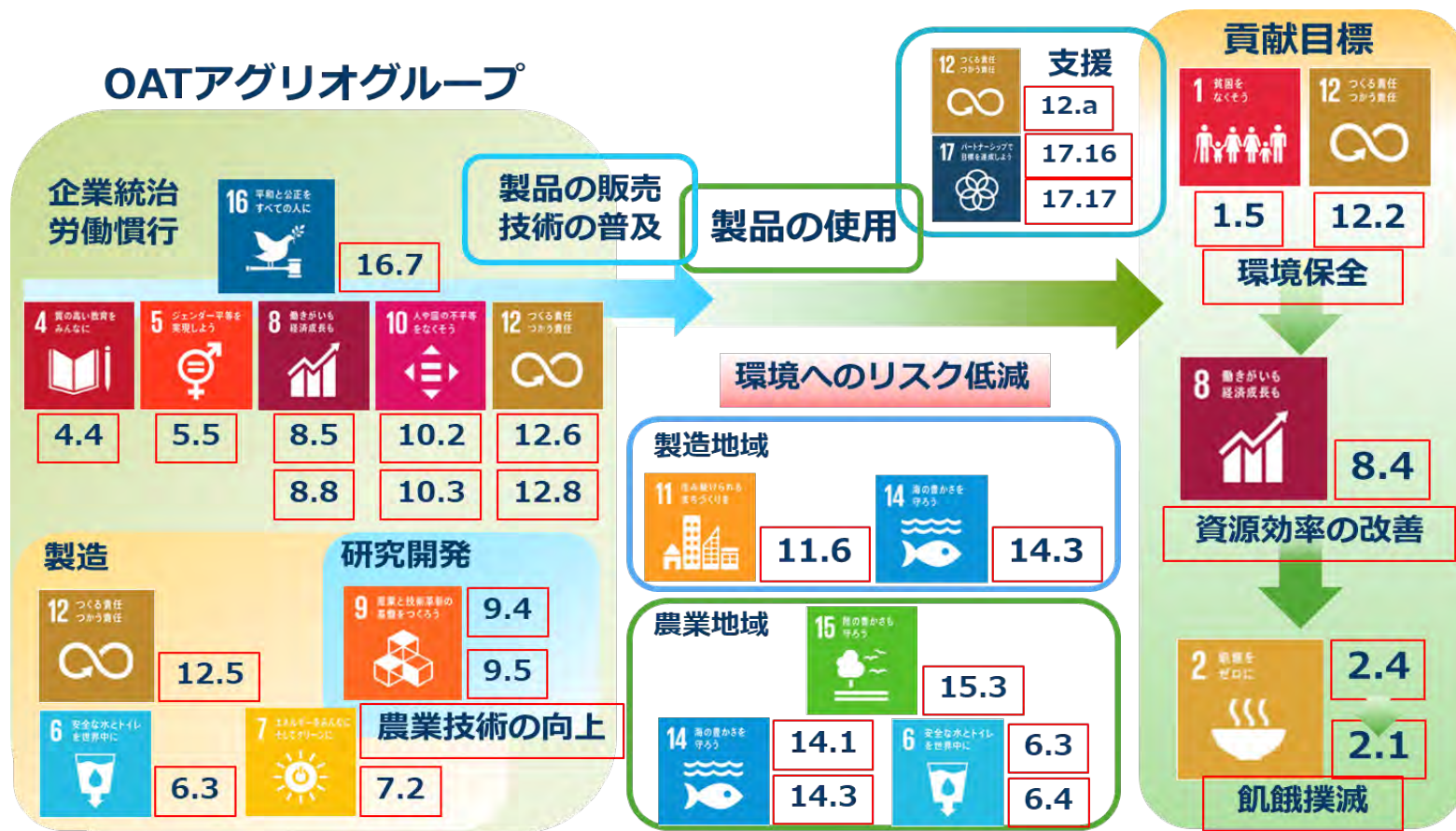
必要最小限の水と肥料
施肥灌水技術

◆ ESG経営/CSR：重要課題と実施項目

ESG	重要課題	KPI	関連SDGs
E En- viron- ment	廃棄物低減とリサイクル	廃棄物・プラスチックゴミの削減、生産ロスの低減、工業用原材料のリサイクル実用化	     6.3、6.4、7.2、11.6、12.5、14.1、14.3
	再生可能エネルギーの利用・温室効果ガスの低減	再生可能エネルギーの利用促進	
	排気・排水管理	工場における水消費・排水管理	
S Social	労働環境	職場の安全性・無事故	     4.4、5.5、8.5、8.8、10.2、10.3、12.2
	製品の品質	品質保証体制の強化	
	人事	新しい働き方と評価制度の策定、女性活躍推進法の遵守と推進	
	人事育成・人材開発	資格取得サポート、テーマ別研修	
	サプライチェーン・マネジメント	物流システム構築、責任ある原材料調達	
G Governance	コーポレート・ガバナンス	ガバナンス・内部統制の強化、情報開示による経営の透明性、ステークホルダー・エンゲージメントの推進	  12.6、16.7、17.16、17.17
	リスクマネジメント	IT統制	
	コンプライアンス	コンプライアンスの推進、ISO9001品質マネジメントの維持・更新	

OATアグリオグループにおいて“環境保全”や“ダイバーシティー”など、ESG経営に積極的に取り組んでおります。

◆OATアグリオグループ SDGsへの取組み



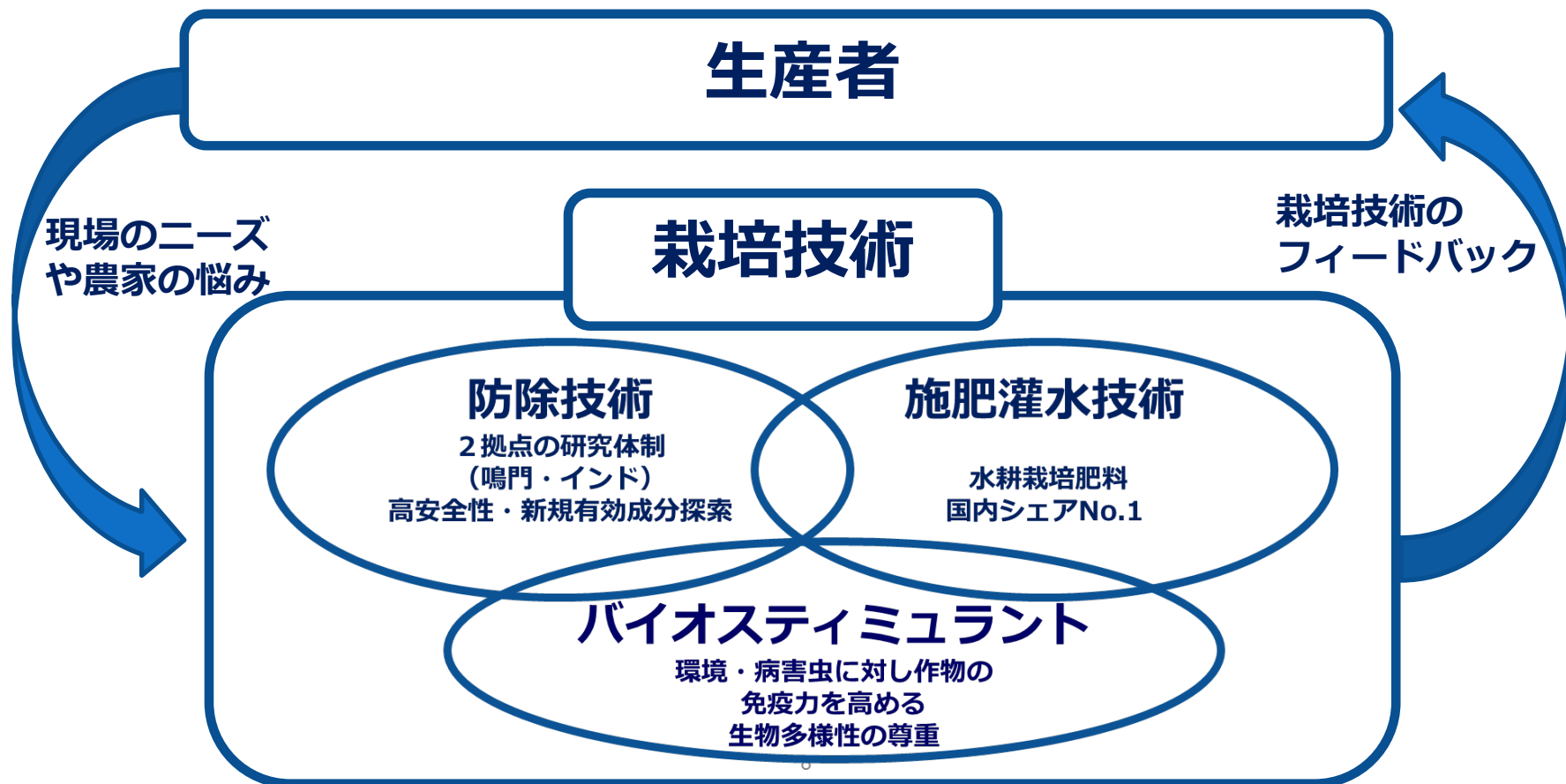
OATアグリオグループの企業活動そのものが、SDGsの取組みである。

『アグリテクノロジー』を普及させることが

“環境保全”・“資源効率の改善”・“飢餓撲滅”に繋がる。

◆OATアグリオの役割

OATアグリオグループは、『企業理念』を実現するために、『栽培』を通して世の中に広く『アグリテクノロジー』を、普及させます。



◆OATアグリオの目指す姿



アグリテクノロジーを世界に普及させるために
社員自らも栽培に挑戦する会社



- ◆ 新中期経営計画達成のための成長ドライバー
 - 人や環境に優しい 「グリーン農薬」
 - バイオスティミュラント事業
 - 施設園芸分野での潜在需要の掘り起こし
 - グローバルでの製品展開

➤ OATアグリオのグリーン農薬製品の定義

農薬登録を有する天然・食品添加物由来または有機JAS適合農薬など使用回数に制限のない安心安全な環境にも優しい防除資材

➤ グリーン農薬の求められる理由

天然・食品添加物由来の安心安全な防除資材のため

使用回数に制限がなく、安心して使用できる防除資材のため

薬剤抵抗性が病害虫に付きにくい防除資材のため

天敵にやさしくIPMに、適合する防除資材のため

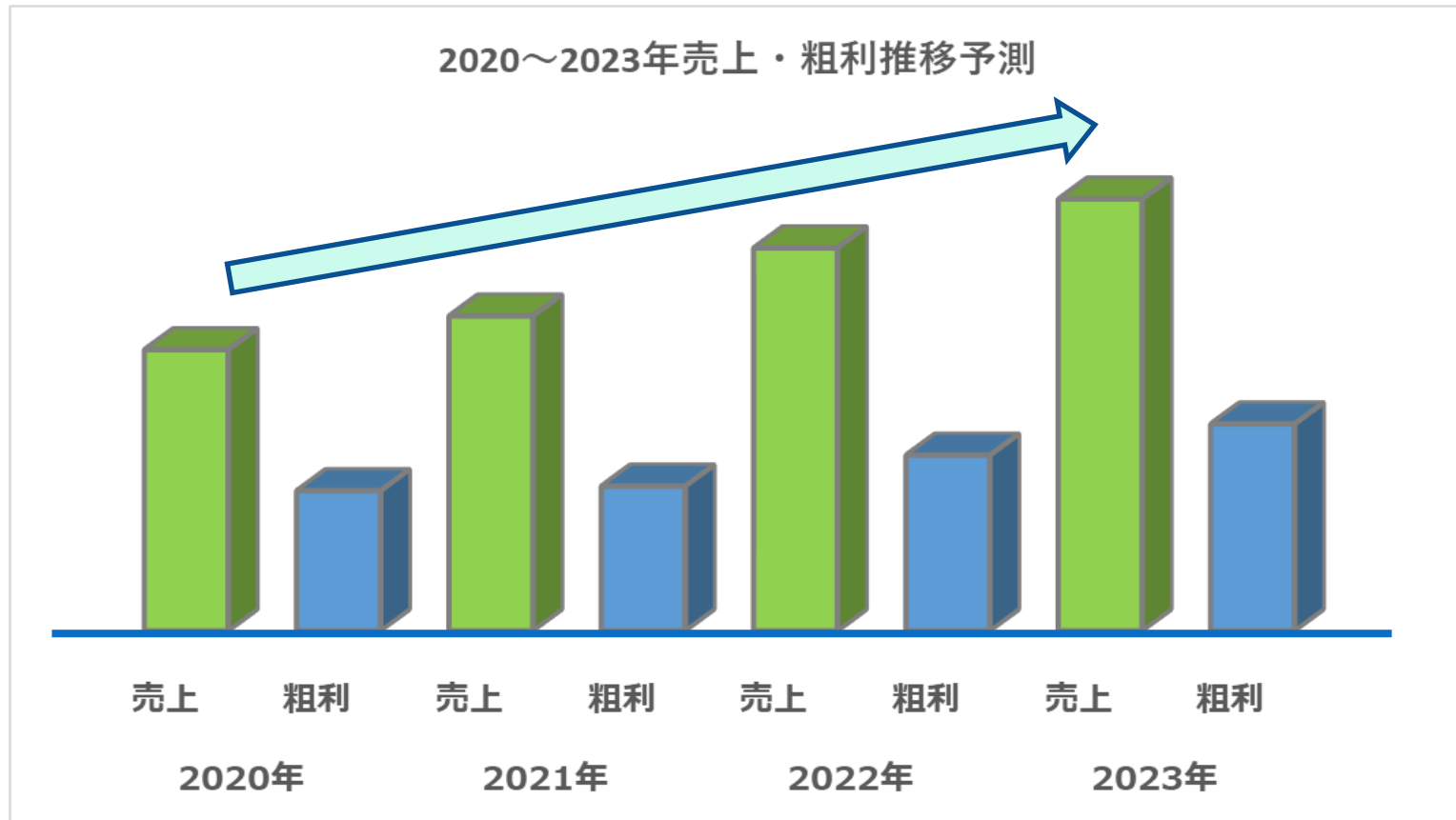
◆OATアグリオのグリーン農薬製品ラインナップ

No.	製品名	有効成分	有機JAS適合 有無	使用回数
1	カリグリーン	炭酸水素カリウム	有機JAS適合	制限なし
2	トモノール	マシン油95%	有機JAS適合	制限なし
3	トモノールS	マシン油97%	有機JAS適合	制限なし
4	オレート液剤	オレイン酸ナトリウム		制限なし
5	アカリタッチ乳剤	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル		制限なし
6	サフオイル乳剤	調合油	有機JAS適合	制限なし
7	スラゴ	リン酸第二鉄	有機JAS適合	制限なし
8	スクミンベイト3	リン酸第二鉄	有機JAS適合	制限なし
9	トアローCT水和剤	BT菌産出毒素	有機JAS適合	制限なし
10	トアローフロアブル	BT菌産出毒素	有機JAS適合	制限なし
11	イオウフロアブル	硫黄	有機JAS適合	制限なし
12	ポテガード	塩基性塩化銅		制限なし



12種類のグリーン農薬製品群で展開

◆人や環境に優しい「グリーン農薬」分野の成長



グリーン農薬

20年実績 vs. 23年計画

売上 160%

粗利

155%

➤ OATアグリオのバイオスティミュラント製品の定義

バイオスティミュラントは植物が本来持つ免疫力を高め、耐寒性・耐暑性・病害虫耐性及び成長を促す物質や技術

➤ バイオスティミュラント製品が求められる理由

免疫力向上で収量増、品質向上

植物のストレス耐性の増強

果実の糖度、色、結実の品質の向上

植物体内の水バランスを調整、改善

栽培土壌の物理性改善

◆OATアグリオのバイオスティミュラント製品

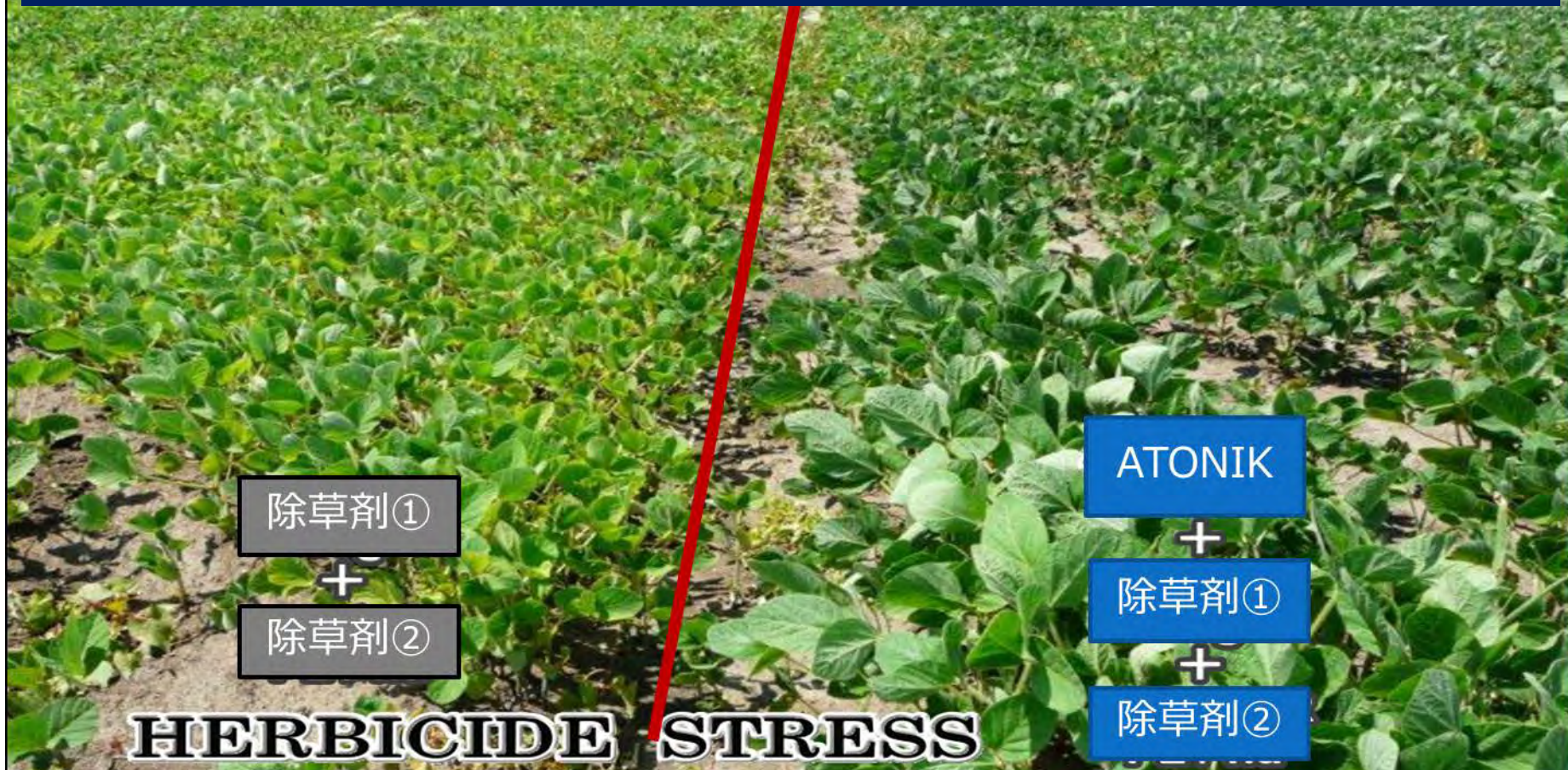
No.	製品名	有効成分	期待される効果	使用回数
1	リダバイタル	甜菜糖密・アミノ酸	光・温度のストレス軽減	制限なし
2	アルガミックス	海藻・糖	乾燥・塩害のストレス軽減 着果向上	制限なし
3	フルボディ	腐植物質（フルボ酸/フミン酸）・海藻	地下部育成・促進 土壌改良	制限なし
4	ポテトール	植物由来物質	気孔の開口をコントロール	制限なし
5	鉄カトレプラス	トレハロース・鉄	土壌中からの鉄分吸収を促進	制限なし
6	サンピ シリーズ	有機酸・糖	気候ストレスを軽減・栄養分	制限なし
7	ATONIK	ニトロフェノール類	非生物的・生物的なストレスからの軽減	



新製品を投入し、ラインナップをさらに拡充

◆バイオスティミュラント (ATONIK)

ATONIK散布によるダイズの発育比較 (ハンガリー)



除草剤によるストレスを軽減します。

◆バイオスティミュラント（リダバイタル）

リダバイタル散布によるお茶の発育比較（日本）



未使用



リダバイタル使用

葉面散布により、高価な一番茶の発芽を促進します。

◆バイオスティミュラント（アルガミックス）

アルガミックス散布によるりんごの着色比較（日本）

上部

底部

上部

底部



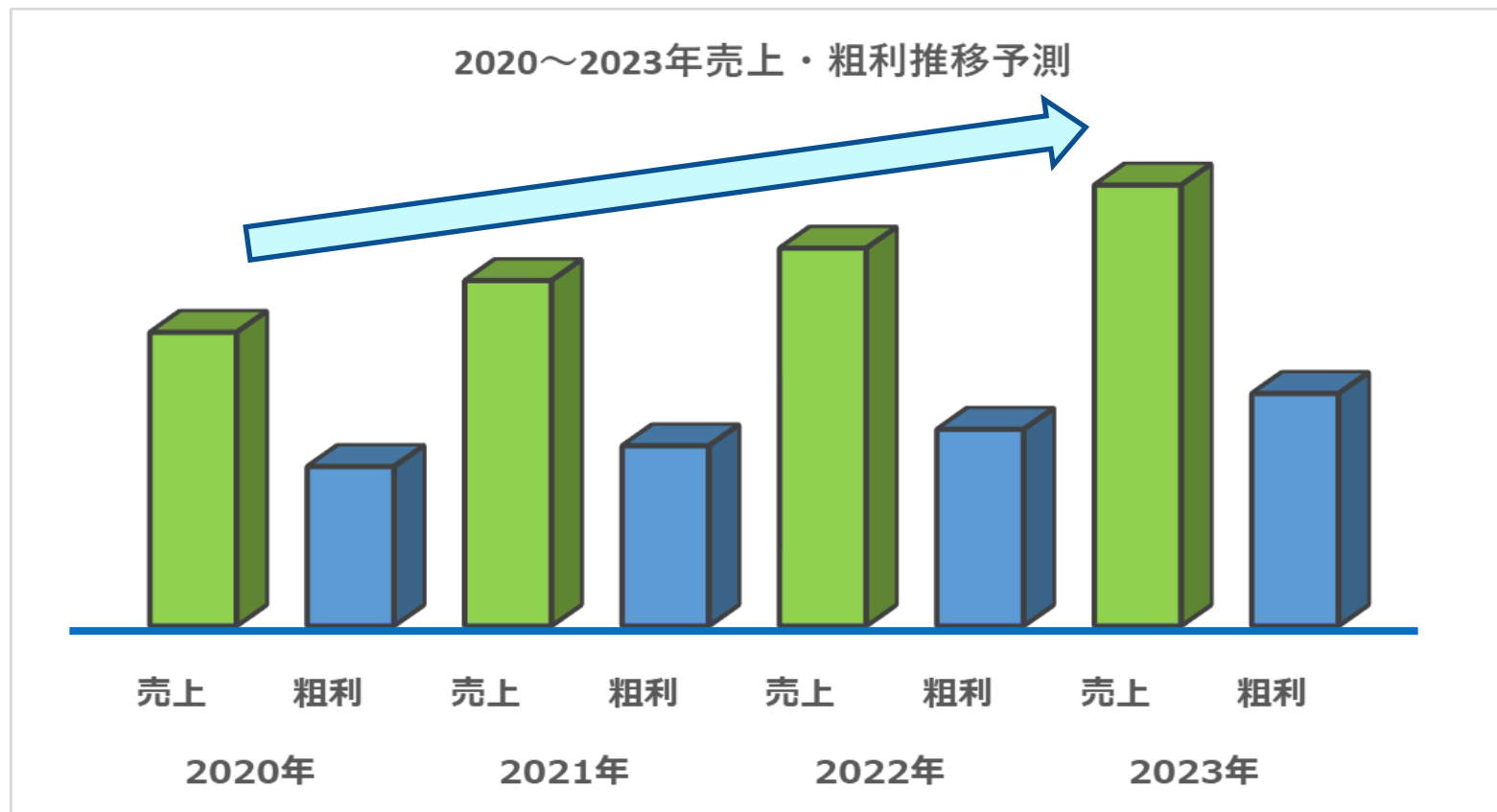
未使用



アルガミックス使用

葉面散布により、リンゴの着色を促進し、天候不順や日当たりの悪い圃場での着色不良を軽減します。

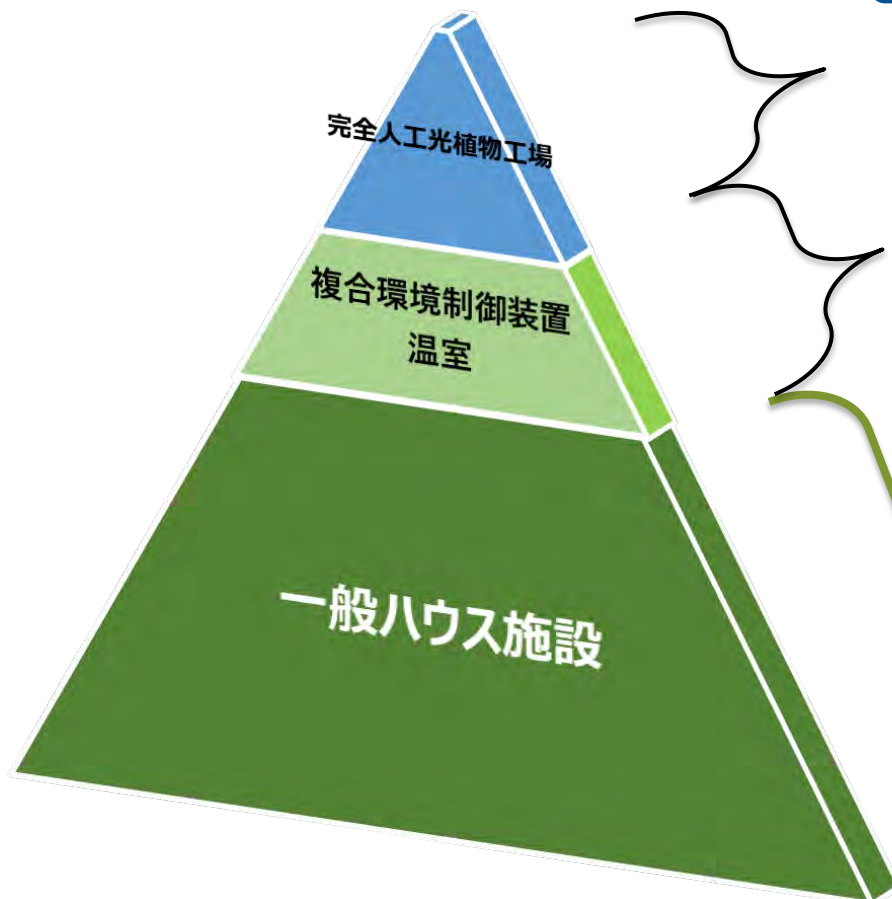
◆ バイオスティミュラント事業の普及拡大



バイオスティミュラント製品 20年実績 vs. 23年計画

売上 152% 粗利 146%

◆日本の施設栽培の現状



★日本における温室の設置面積

完全人工光型植物工場
22ha



複合環境制御装置のあるハウス施設
1,134ha (2.7%)



複合環境制御装置のない一般ハウス施設
41,030ha



施設園芸 栽培延べ面積 41,030ha ターゲットに

◆施設園芸栽培分野に貢献できるOATアグリオ製品

➤ 施設園芸用肥料

OKFシリーズ、養土耕肥料、タンクミックスシリーズ

➤ 防除農薬

サフオイル・アカリタッチなどの“グリーン農薬”製品

➤ バイオスティミュラント製品

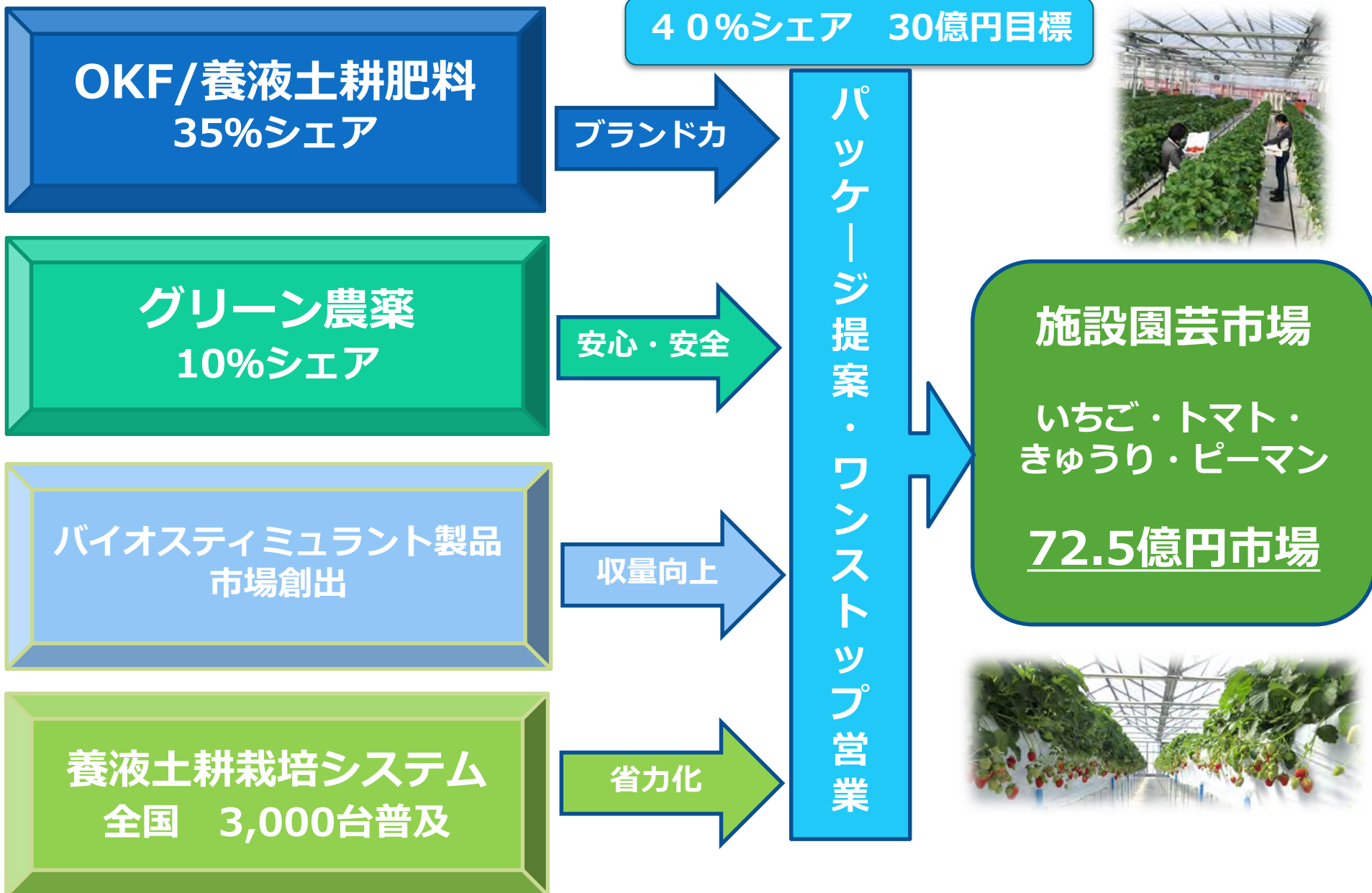
LIDA 3製品

➤ 養液土耕栽培システム

設備・システム



◆施設園芸市場（72.5億円）へのパッケージ提案



◆栽培技術と防除技術のパッケージ提案

当社栽培研究センターにおいていちご実証栽培を実施

当社の資材（肥料、農薬およびBS）と栽培技術を用いて、徳島でいちごを栽培しています。生産物は「**ほほえみいちご®**」のブランドで販売しており、市場の評価も受けています。また、この実証圃場は「**GLOBALG.A.P. (グローバルギャップ)**」の認証を取得しています。



安心安全・高収量の追求

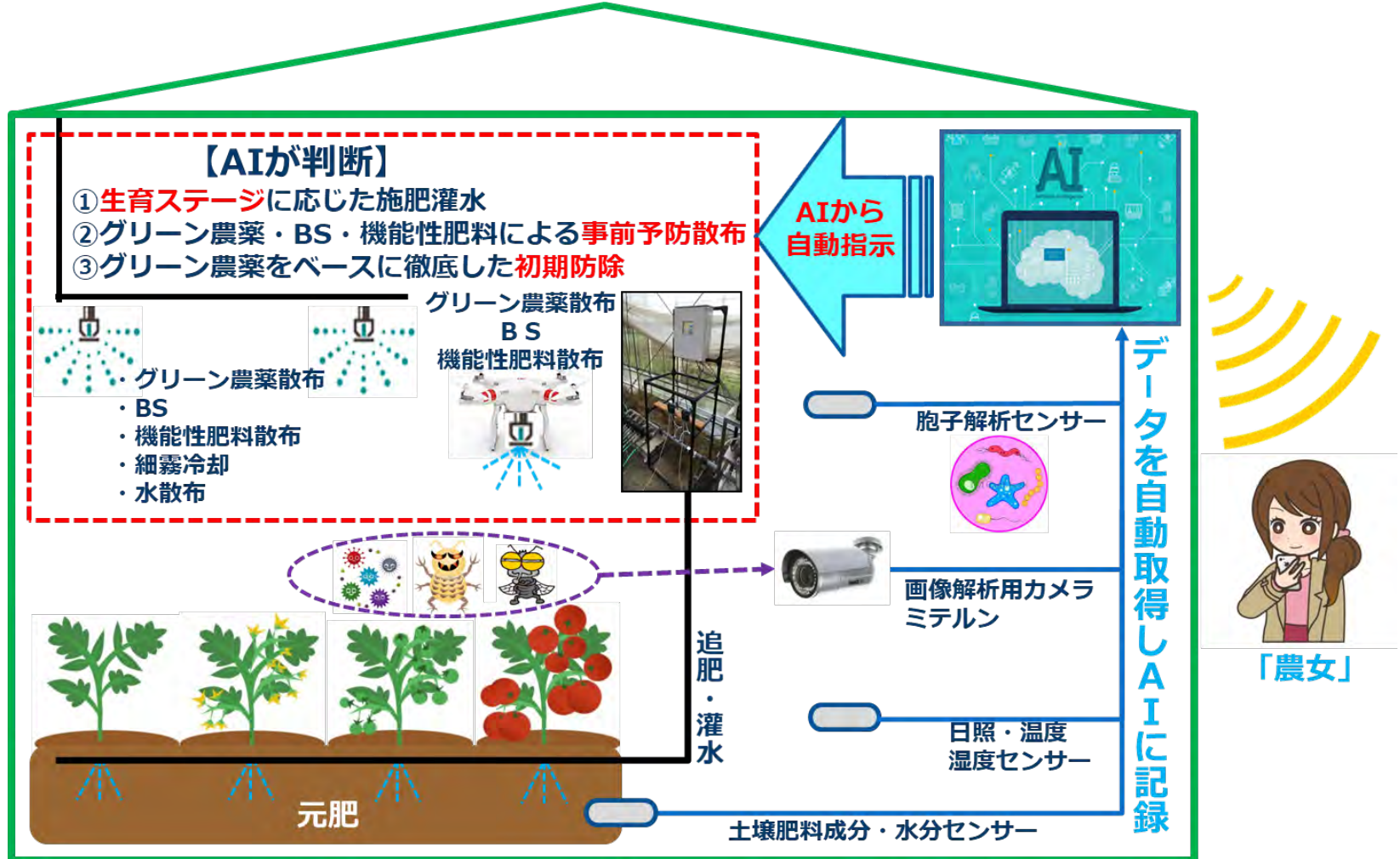
- 化学合成農薬を極力使用しない栽培を採用

2019-2020年の栽培で、化学合成農薬の使用回数を15回（本圃5回、育苗10回）に抑えて栽培をすることができました。ちなみに徳島県の慣行の防除回数は54回と設定されています。この**減農薬栽培**を実現するために、**グリーン農薬の使用**、高濃度CO2処理後定植やUV-Bランプなどの最新栽培技術を導入しています。

また、収量は「**さちのか**」という品種で**6.1ト/10a**を実現しました。



◆スマート農業（施設園芸）への対応



各種センサー/カメラ・AIによる自動診断により、生育ステージに応じた栽培を可能にすることを目指します。

◆スマート農業（施設園芸）への対応

➤ 栽培の自動化・省力化

① 定点カメラを利用した生育の自動診断技術の開発



生育状況などを自動測定
→液肥混入機連動やアドバイス情報提供

② 農薬・葉面散布の自動散布技術の開発



自走式静電散布装置の共同開発

◆ 農業資材EXPO2021

東京展

第11回 国際 農業資材 EXPO

会期: 2021年10月13日[水]~15日[金]

会場: 幕張メッセ

主催: リード エグジビション ジャパン(株)

関西展

第5回 関西 農業資材 EXPO

会期: 2022年3月9日[水]~11日[金]

会場: インテックス大阪

主催: リード エグジビション ジャパン(株)

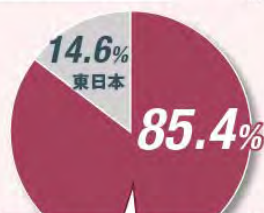
2022年 3月 関西展

前回来場者数 6,665名

2021年 10月 東京展

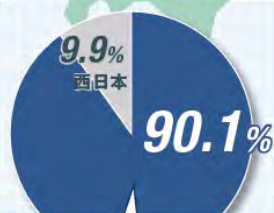
前回来場者数 23,175名

<前回 来場者 地域別割合>



来場者の約9割が
西日本から!

近畿、中国、四国、九州
の農業関係者



来場者の約9割が
東日本から!

北海道、東北、関東、
東海、甲信越、北陸
の農業関係者

<前回 来場者数内訳>

関西展のみ来場 6,178名

東京展のみ来場 22,688名

出展社

下記のメーカー・商社など

- 施設園芸 資材
- 農業機械
- 肥料・土
- 農産物パッケージ
- 鳥獣害対策
- 災害対策 資材

…など

商談内容

- ◆ 取引先の開拓
- ◆ 製品の受注
- ◆ 新製品・新技術
の売込み

…など

来場対象者

下記の農業関係者

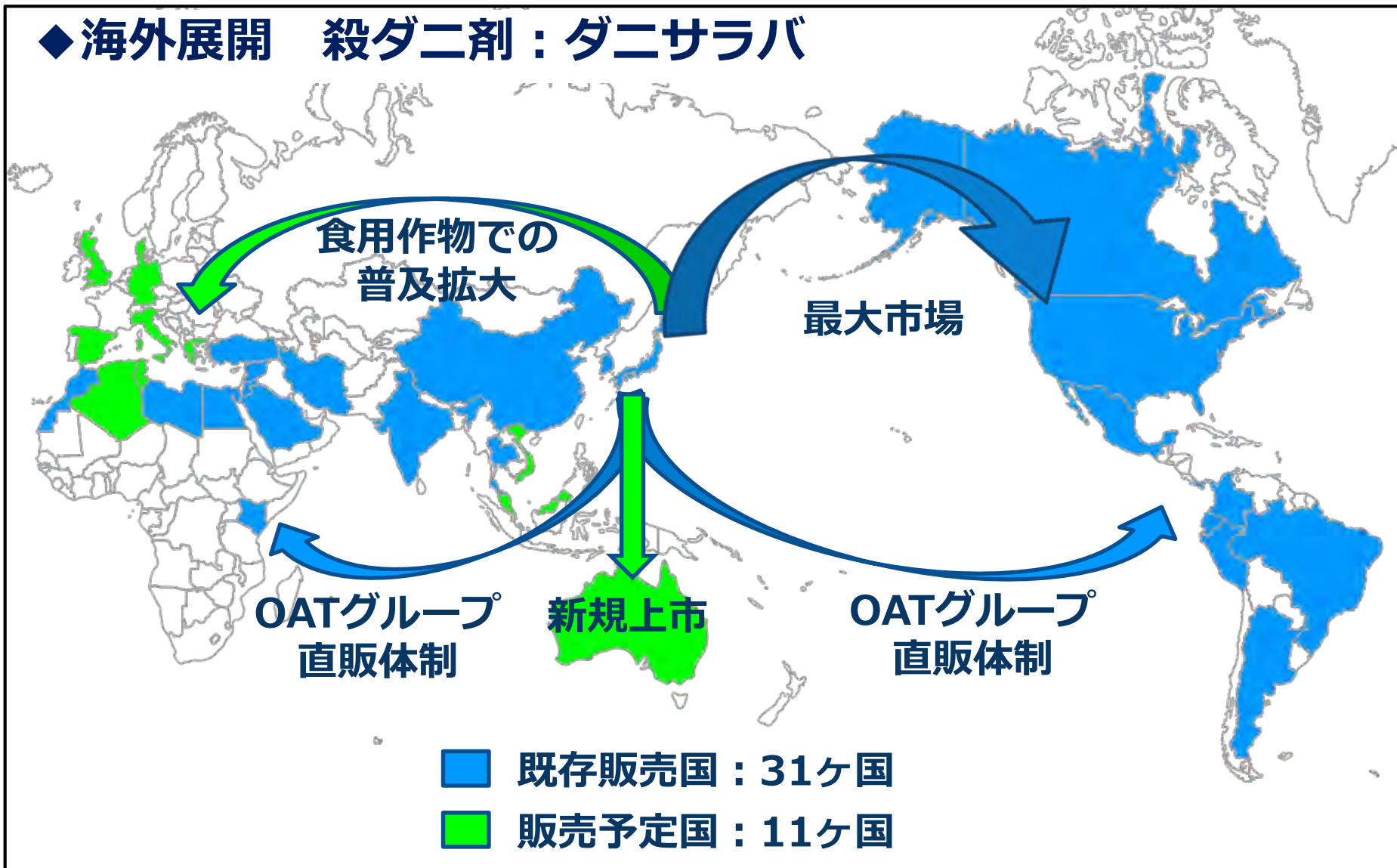
- 農業法人・農家
- 農協
- 農業資材店・卸
- ホームセンター
- 自治体、大学
- 農業参入検討企業

…など

◆ 農業資材EXPO2021



◆海外展開 殺ダニ剤：ダニサラバ

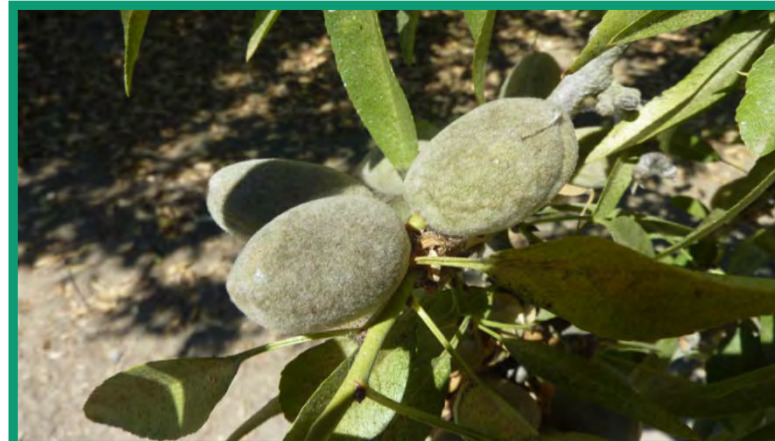


◆海外展開例① 殺ダニ剤：ダニサラバ

シトラスのダニによる被害（ブラジル）

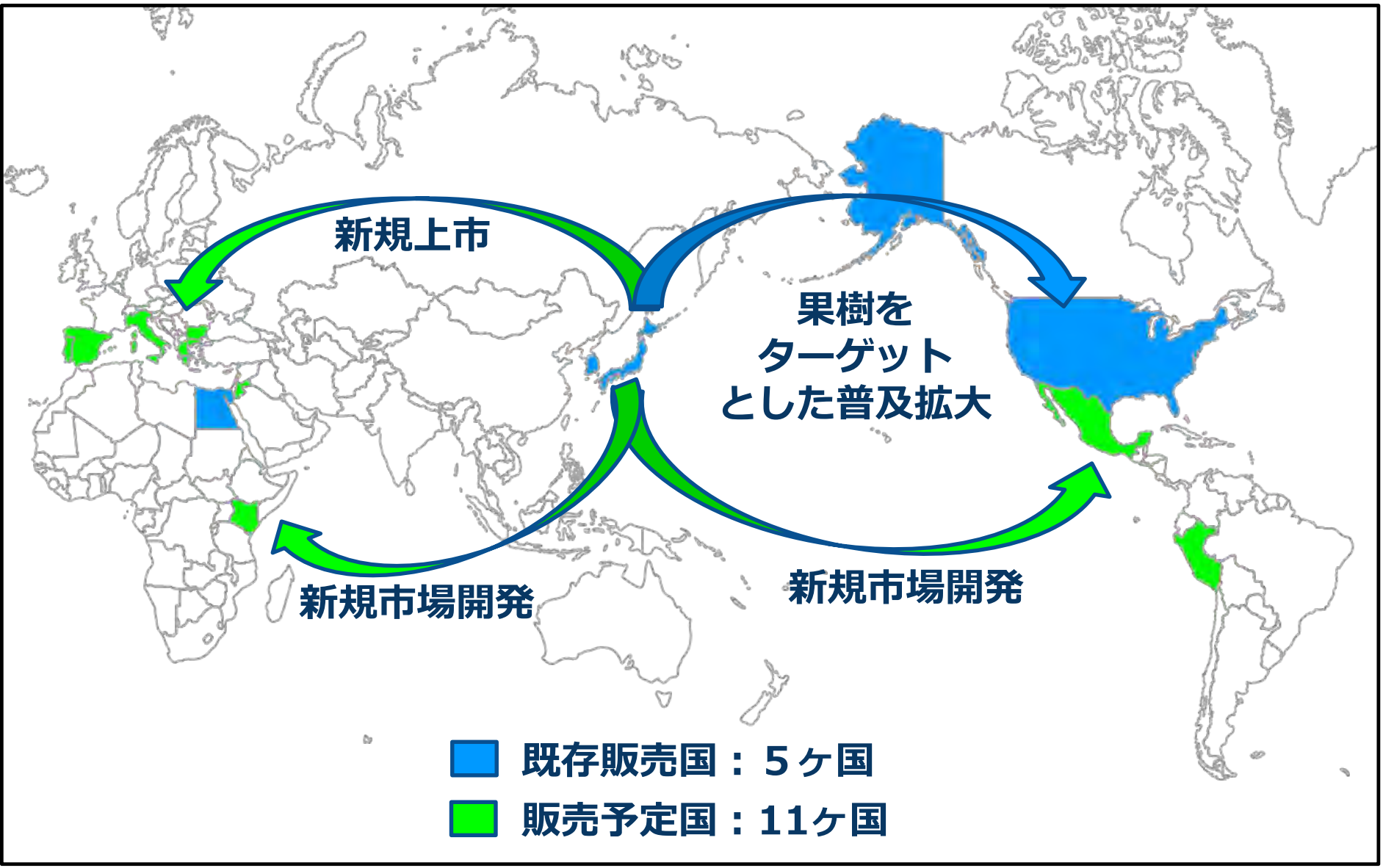


アーモンドのダニによる被害（USA）



ダニサラバの特徴：ハダニに卓越した効果を示すが、天敵には影響がない

◆海外展開 殺菌剤：ガッテン



◆海外展開例② 殺菌剤：ガッテン

Squashのうどんこ病による被害

ガッテン 散布25日後の比較対象

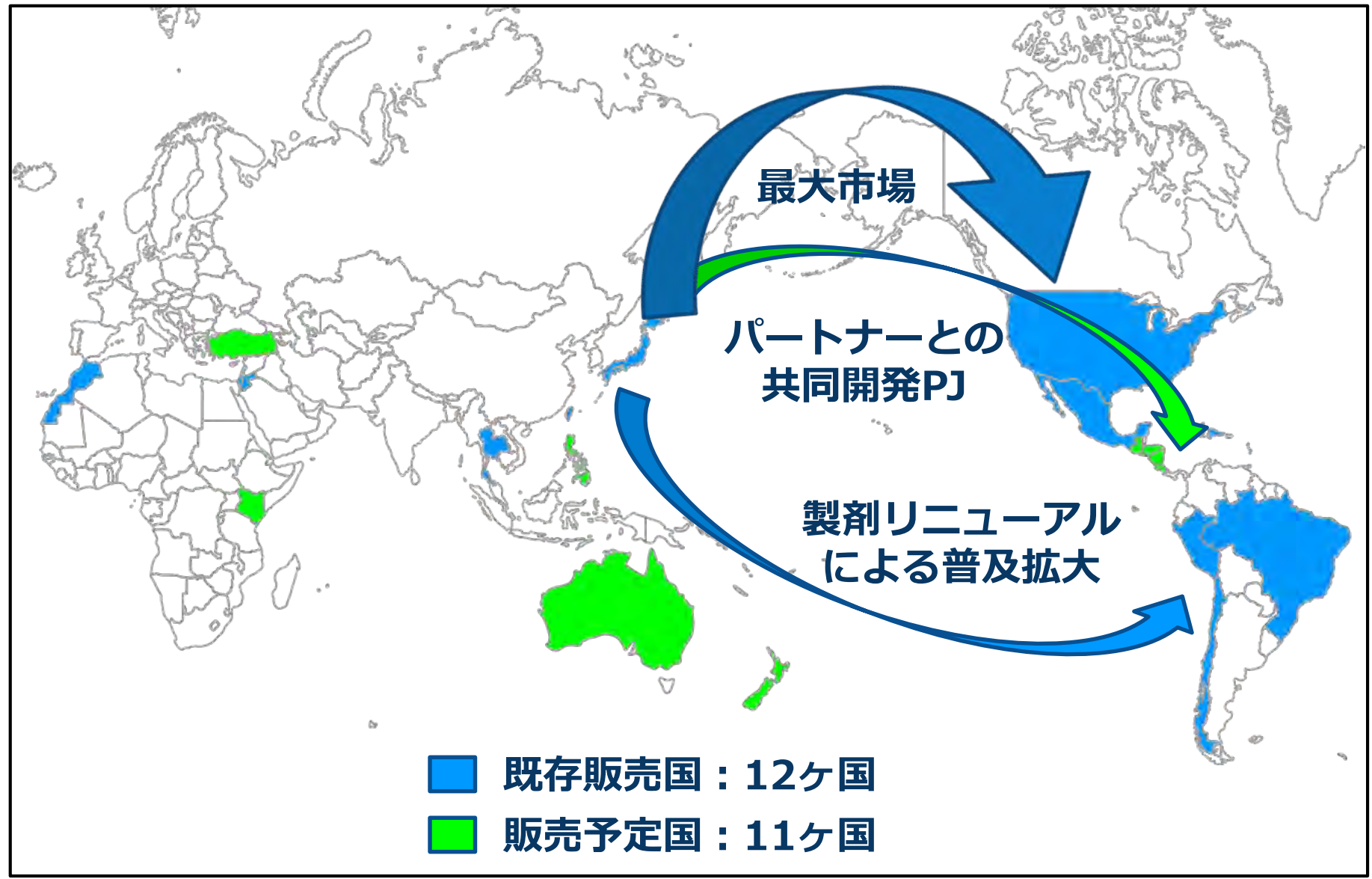


未使用



0.03lb ai/acre ガッテン

◆海外展開 殺菌剤：カリグリーン(グリーン農薬)



◆海外展開例③ 殺菌剤：カリグリーン(グリーン農薬)

バナナのシガトカ病による被害

カリグリーン散布後の比較対象

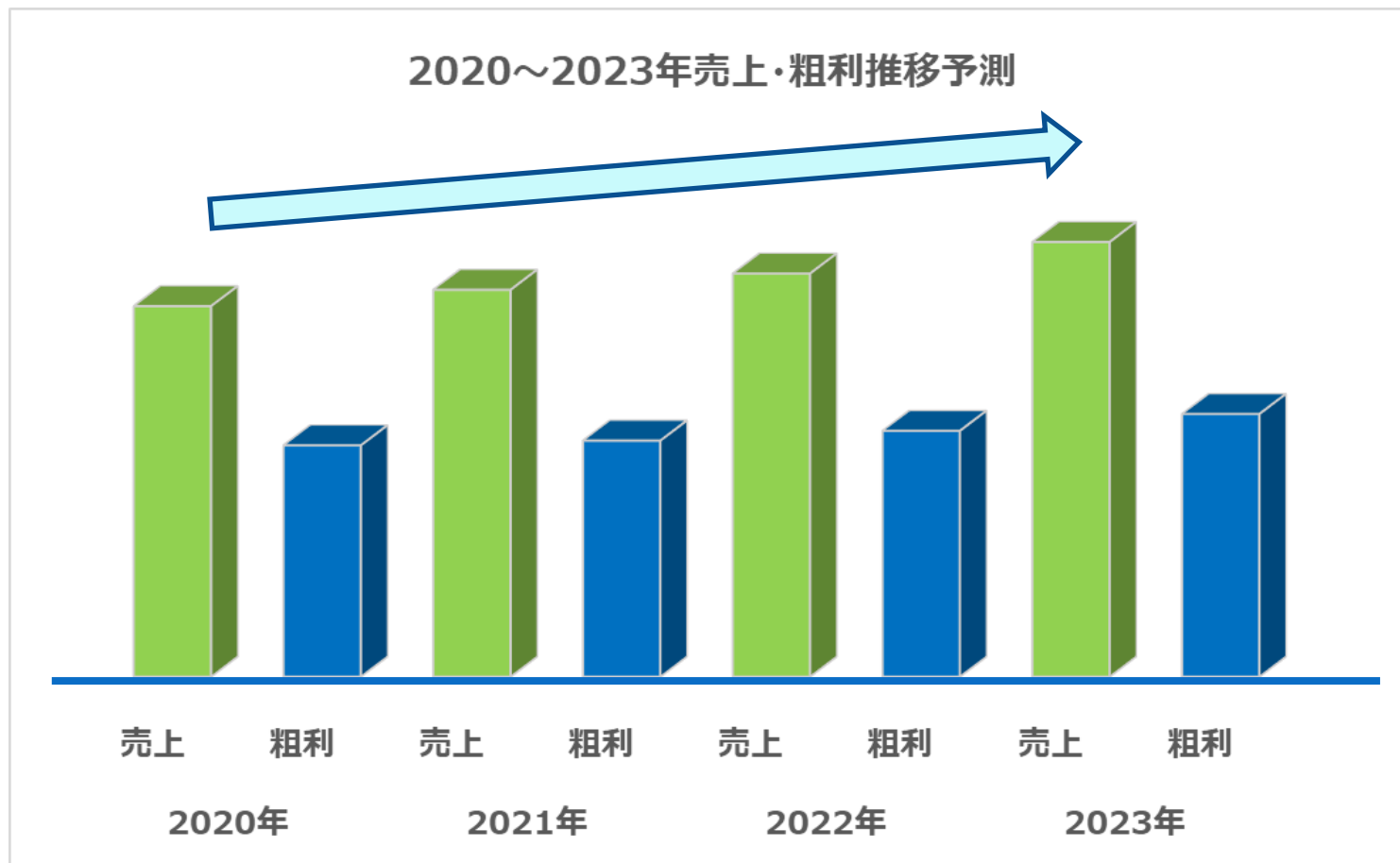


未使用



カリグリーン散布

◆グローバルでの製品展開による拡大予測

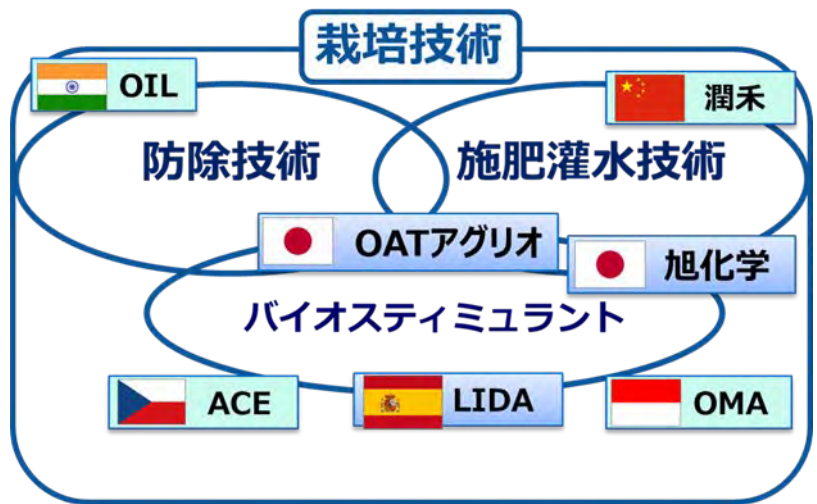
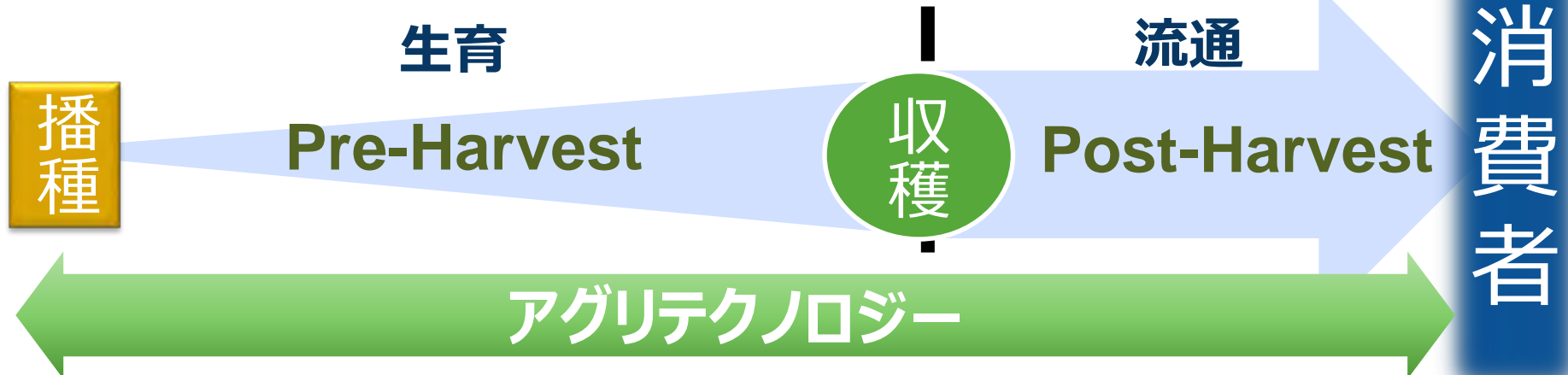


海外販売

20年実績 vs. 23年計画
 売上 117% 粗利 113%

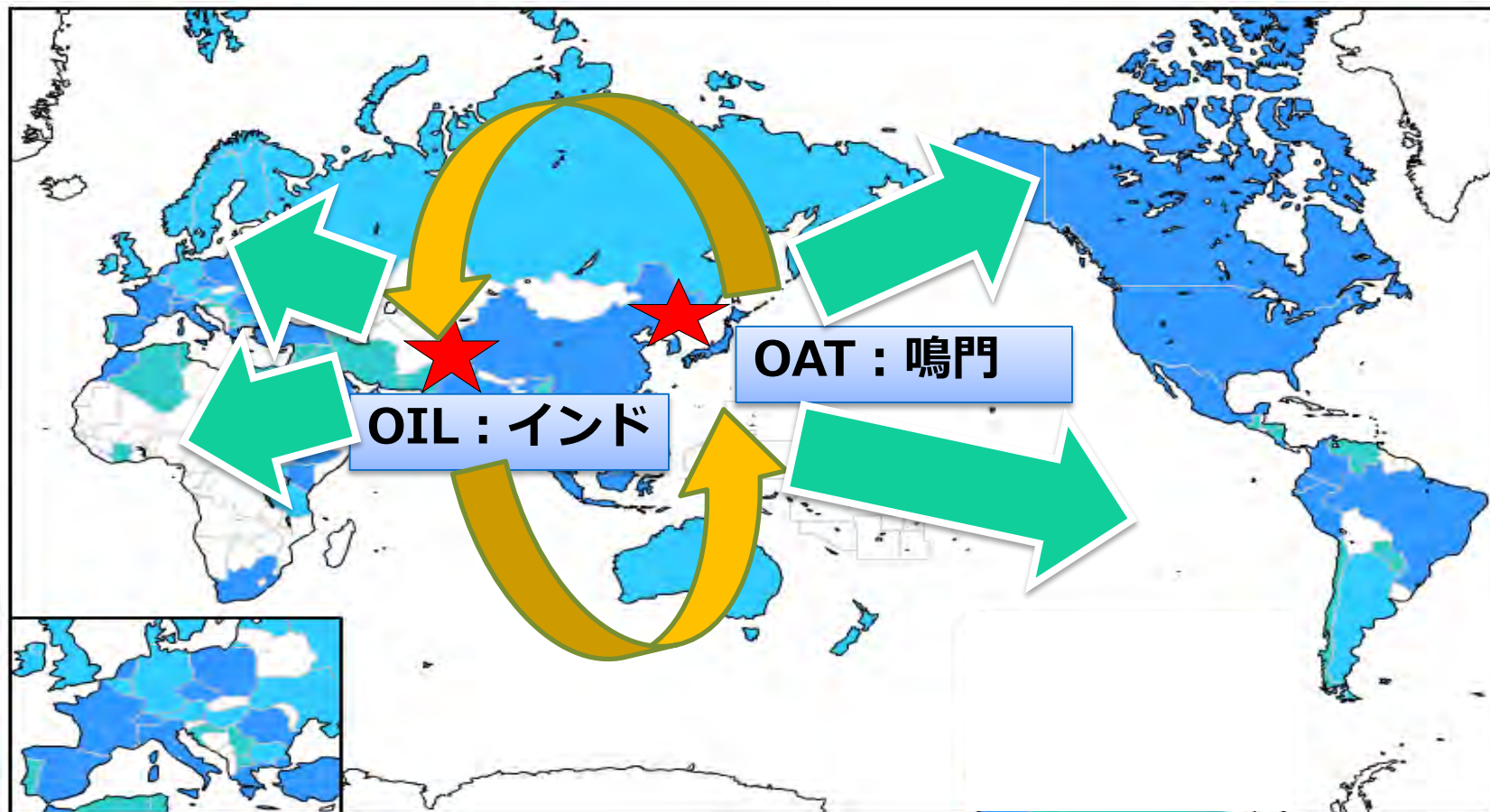
5. グローバルでのシナジー効果の追求

◆農業バリューチェーンにおけるOATグループの関わり



“播種”から“消費者”まで『アグリテクノロジー』でカバーします。

◆OATアグリオグループ グローバル研究体制【新薬/新剤】

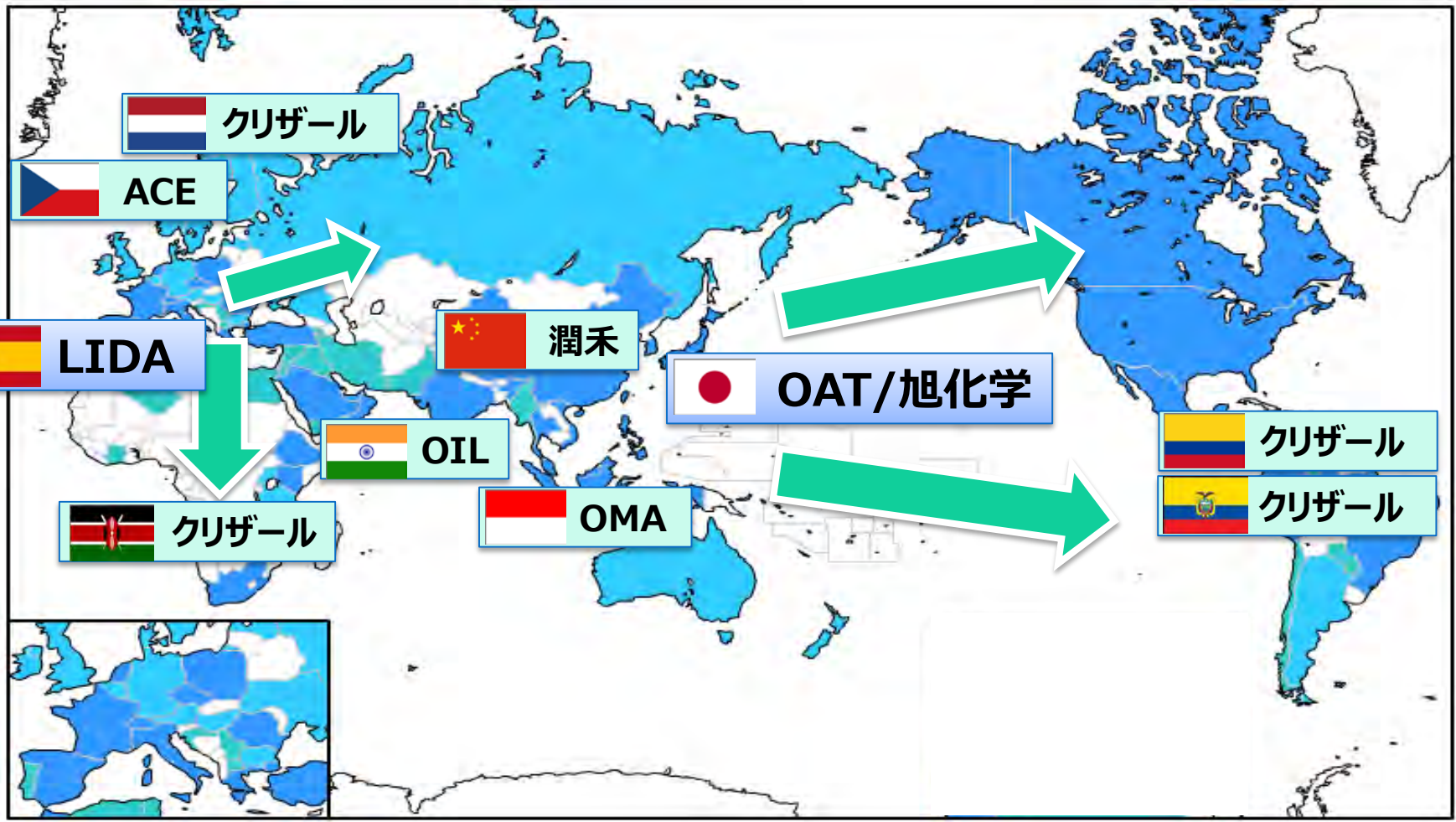


**日印2拠点にて
グローバルな視点で研究開発を加速**

単位：百万円

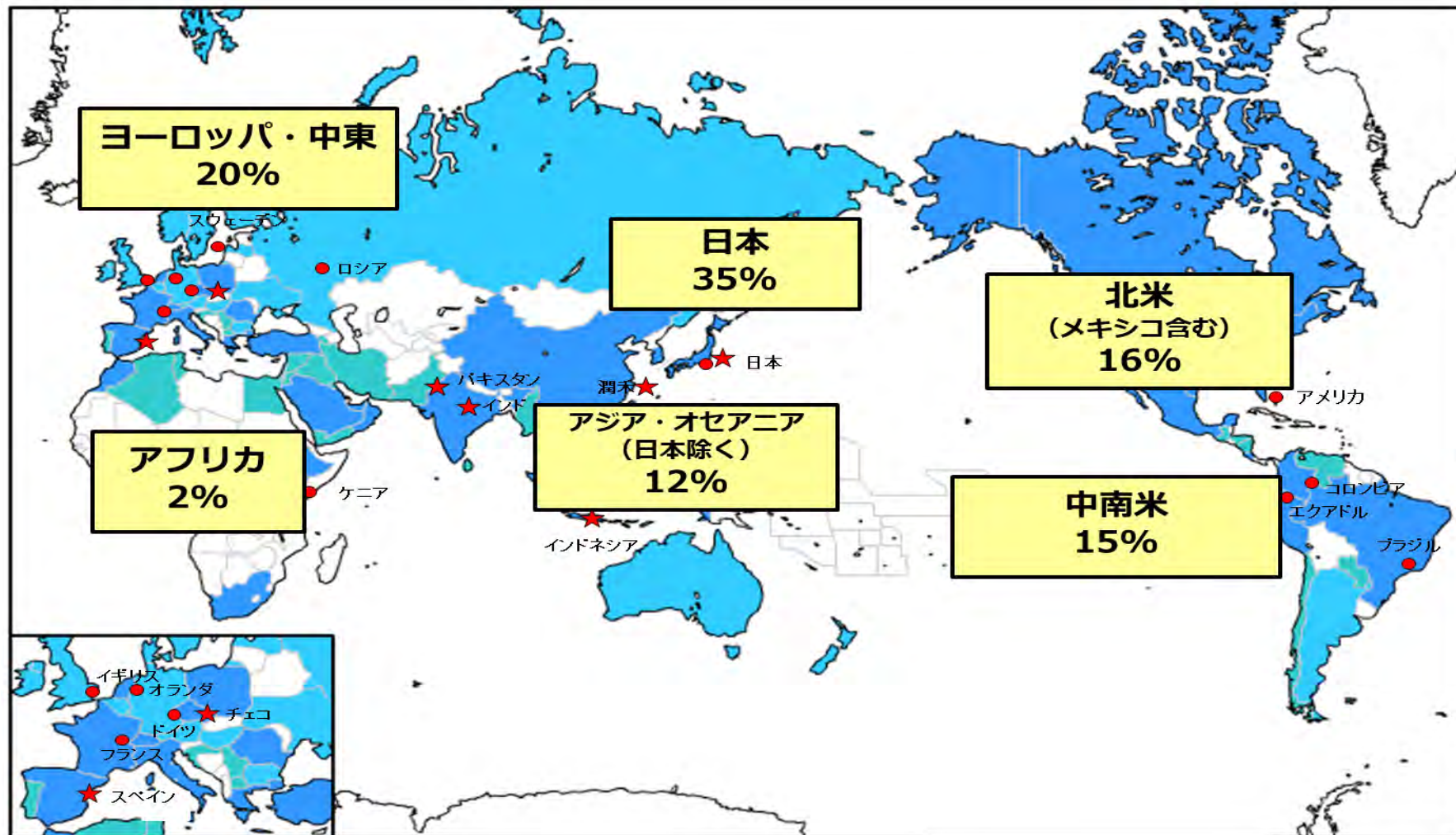
	2017年	2018年	2019年	2020年
研究開発費用	1,234	1,299	1,452	1,730
売上に対する比率	8.7%	8.5%	6.6%	8.5%

◆バイオスティミュラント製品のグローバル展開



日本・スペイン発の製品をグローバルに展開

◆ 海外市場への取組み エリア別比率



五大陸すべての地域で販売

6. 企業文化の構築と新規ビジネスへの挑戦

➤ コロナ禍での企業文化の必要性

コロナ禍で将来を見通せない不安な気持ちを払拭するために、OATアグリオが得意とする「栽培」に着目し、「栽培の楽しさ・難しさを自ら体験し、世界に発信する」ことを企業文化とします。

「栽培」はOATが優位性を持って市場競争を勝抜く武器であり、他社が簡単に真似のできない強みです。

強みにフォーカスしたこの企業文化は、全社員が共有する価値観であり、行動規範です。

【いちごの栽培】



62

【ピーマンの栽培】



64

【さやえんどうの栽培】



◆市場環境の変化

➤ コロナ禍での生活様式の変化 巣ごもり需要の拡大

コロナ禍において、家庭での滞在時間が増えたことで、家庭園芸・家庭菜園が見直され、また自宅の庭やベランダで野菜や果物、花を育てる事を始めた人が増えています。

ホームセンターや園芸関係のネットショップの売上が増加し、前年比160%との調査結果もあります。

【ミニトマトの栽培】



【チンゲン菜の栽培】



◆ 企業理念の実現

➤ OATアグリオは“栽培の楽しさ”を世界に発信します。

コロナ禍において、家庭での滞在時間が増えた消費者の皆さんに対して、社員が自ら栽培に取り組むことで、家庭園芸や家庭菜園の楽しさを発信します。

家庭でも手軽に楽しく野菜や花が栽培できることや、育てる楽しさ、収穫の楽しさ、食べる楽しさをお伝えしたいと考えます。

➤ 企業文化として「栽培の楽しさを世界に発信」し始めました。



◆新規ビジネスへの挑戦

➤ OATアグリオは新たなD2Cビジネスに挑戦します。

より簡単に楽しく栽培できるノウハウを、SNSを通して発信するとともに、OATのECサイトにて栽培に必要な資材を販売致します。

ワンストップで必要な資材を揃えることができ、SNSやWebサイト上で栽培のやり方をお伝えすることで、双方向のやり取りをしながら、新たなビジネスモデルに挑戦し、巣ごもり需要を開拓します。



OATアグリオ株式会社



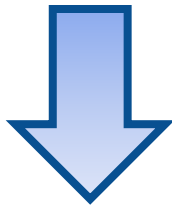
◆ 企業文化の構築と新規ビジネスへの挑戦

➤ コロナ禍での巣ごもり需要の開拓

『企業理念』
アグリテクノロジーと真心

既存ビジネス

増収
安定生産
品質改善



生産者

農業就業人口：168.1万人
平均：67歳

『企業理念』 + 『企業文化』
アグリテクノロジーと真心
栽培の楽しさを発信

新規D2Cビジネス

育てる楽しさ
収穫の楽しさ



美味しい楽しさ
綺麗な楽しさ

家庭園芸・家庭菜園

農園・市民農園：360万人

◆企業理念と企業文化

『企業理念』

食糧増産技術(アグリテクノロジー)と真心で
世界の人々に貢献します。

『理念の実現』

栽培を通して世の中に広く
アグリテクノロジーを普及させる会社を目指す。

『企業文化』

栽培の楽しさ・難しさを自ら体験
世界に発信する。

◆ 新中期経営計画 (連結)

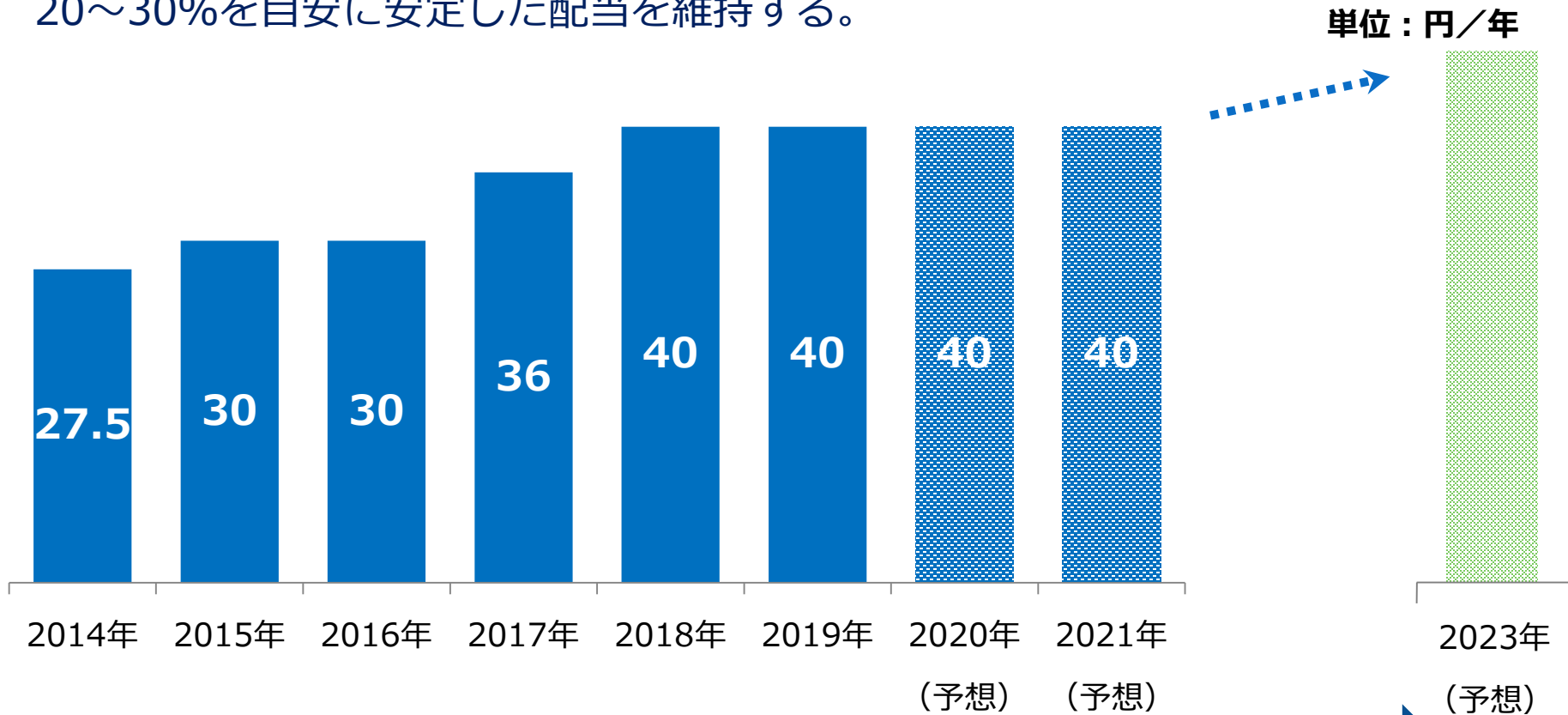
	2020年実績	2021年計画	2022年計画	2023年計画
売上高	202.8億円	212.8億円	220.8億円	234.4億円
営業利益	15.1億円	15.9億円	19.9億円	24.5億円
経常利益	13.4億円	14.2億円	17.8億円	22.5億円
親会社に帰属する当期純利益	8.3億円	9.0億円	10.3億円	14.1億円
売上高営業利益率 (%)	7.5%	7.5%	9.0%	10.4%
連結ROE (%)	12.9%	13.8%	14.1%	16.8%
売上高研究開発費比率 (%)	8.5%	10.1%	9.5%	9.6%

連結対象会社： OATアグリオ (日本) 旭化学工業 (日本)
 OIL(インド) ACE(チェコ) 潤禾(中国)
 OMA(インドネシア) LIDA(スペイン) 他2社
 BWHホールディングス(オランダ：Chrysal) 他18社
 インプラント(日本)

◆株主還元

➤ 基本的な考え方

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置付けたうえ、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、配当性向20～30%を目安に安定した配当を維持する。



配当性向20～30%を維持

◆本資料の取扱いについて

- 本書には、当社及び当社グループに関する見通し、将来に関する計画などが記載されております。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。